

令和 7 年 11 月 11 日
農林水産省消費・安全局

「食品安全の観点での有害化学物質に対する関心についてのアンケート」の 結果概要について

1. 経緯

農林水産省は、食品安全に関する情報、消費者・生産者・食品事業者等の関係者の意見や、コーデックス委員会や諸外国政府の動向を参照し、有害化学物質の中から、食品安全の観点で優先的にリスク管理を行うものを選定し、「農林水産省が優先的にリスク管理を行うべき有害化学物質のリスト」として平成 18 年に公表している。その後 5 年ごとにリストに掲載する有害化学物質の見直しとリストの更新をしており、本年は直近の更新を行った令和 2 年から 5 年が経過することから、最新の科学的知見や関係者の関心、国際的動向に基づいて、リストの更新を行う。

有害化学物質の優先リストの見直し、更新にあたり、消費者・生産者・食品事業者や自治体等の関係者の皆様の有害化学物質への関心度を把握するとともに、農林水産省が食品安全の観点からリスク管理に取り組むべき有害化学物質について広く情報やご意見を集めるためのアンケート調査を実施した。

2. アンケートの方法

実施主体：農林水産省消費・安全局食品安全政策課

実施期間：令和 7 年 8 月 7 日（木）～ 9 月 12 日（金）

実施方法：Microsoft® Forms®を活用した web アンケート

対象者・対象範囲：地方自治体、大学・試験研究機関、食品関連事業者、消費者等

周知の方法：農林水産省より、地方自治体、農学・獣医学系大学、試験研究機関、業界団体、消費者団体等の関係者にメールし、アンケートの回答への協力を依頼。農林水産省が運営する J-FSAN の登録会員にも協力を依頼。

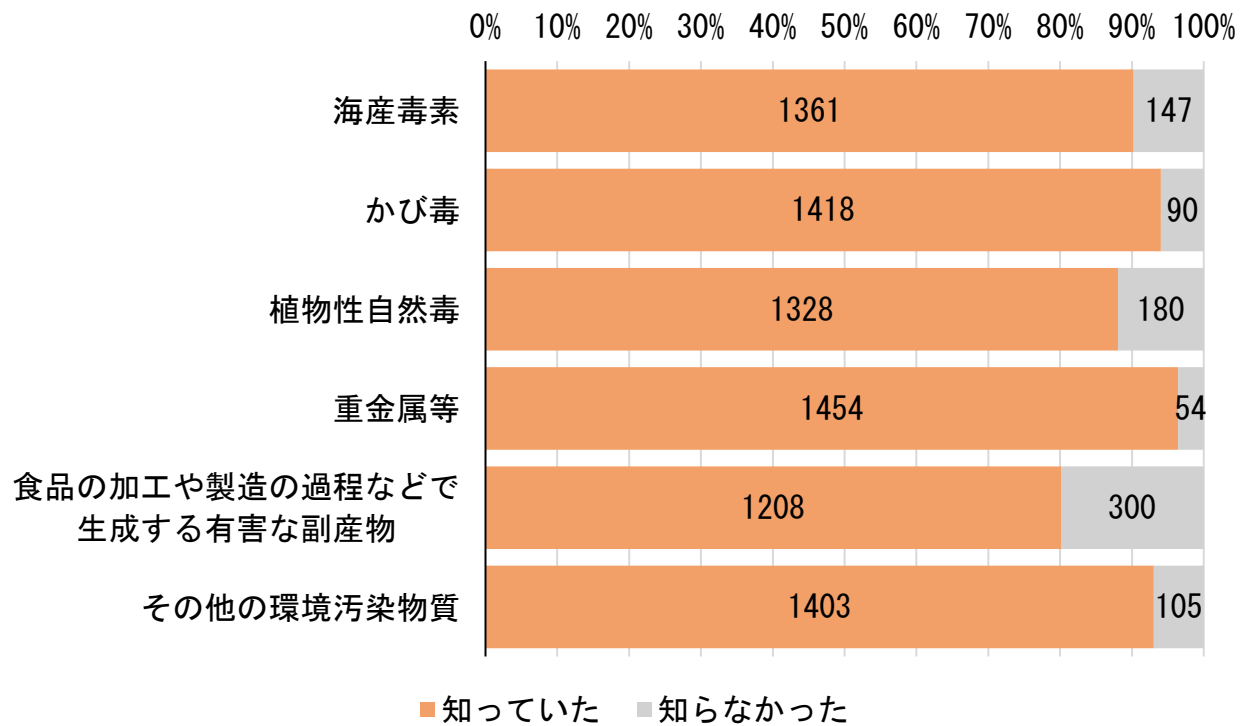
質問項目：別紙 1

3. 集計結果の概要

(1) 回答数

属性区分	回答数
地方自治体・行政機関等	313
大学・試験研究機関等、分析機器メーカー等	694
食品関連事業者、資材関連事業者、専門職	456
消費者	45
合計	1,508

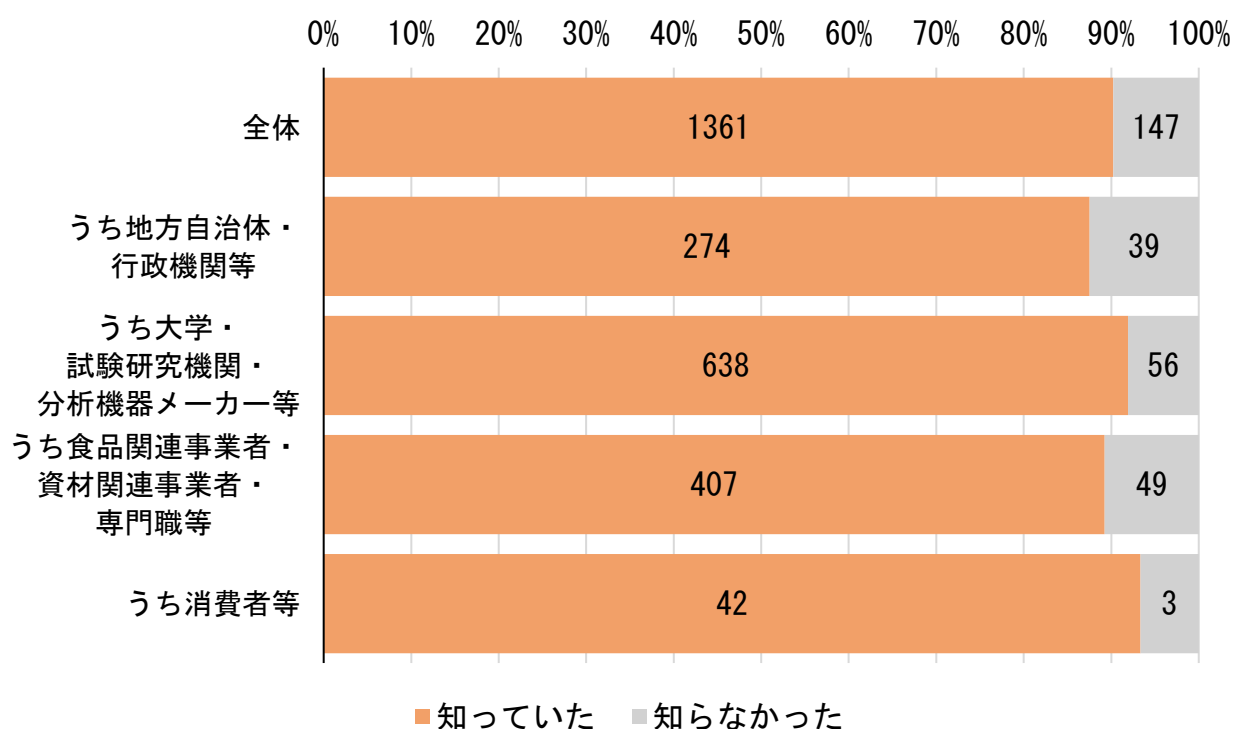
(2) 危害要因群ごとの認知度（全体）



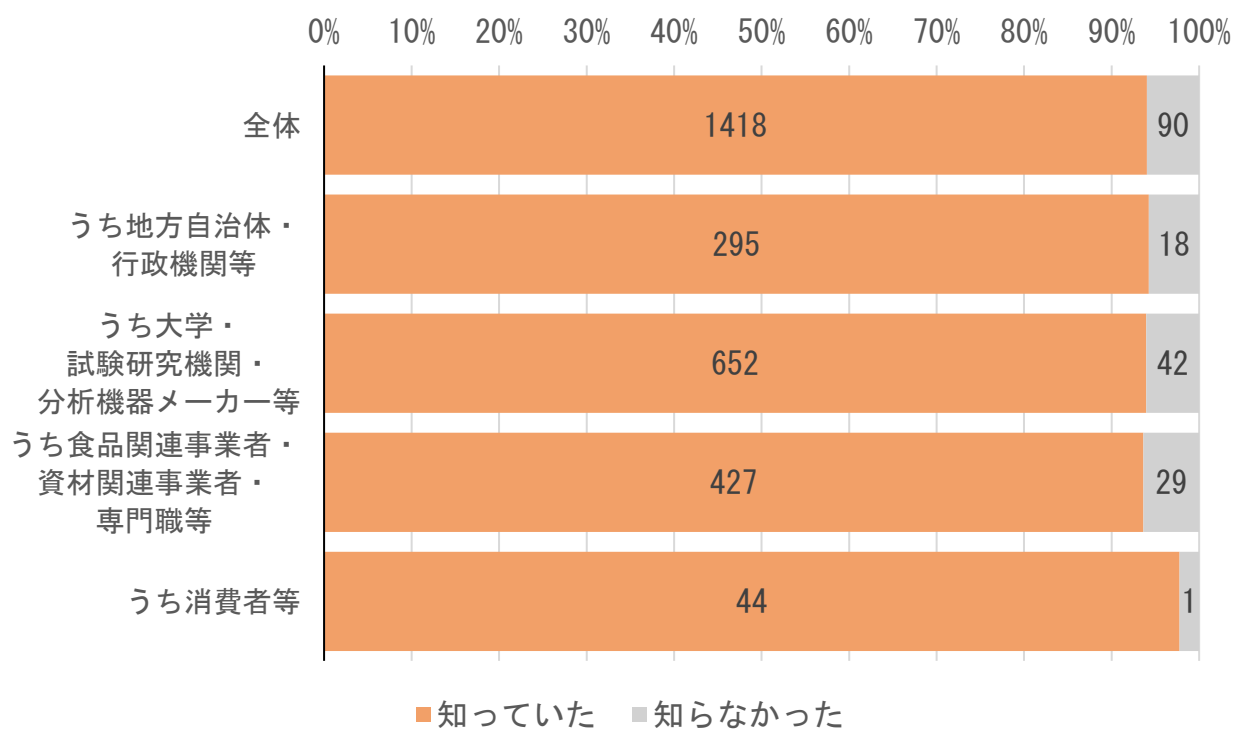
※その他の環境汚染物質の例：放射性物質、ダイオキシン類、PFAS など

(3) 危害要因群ごとの認知度（属性区分ごと）

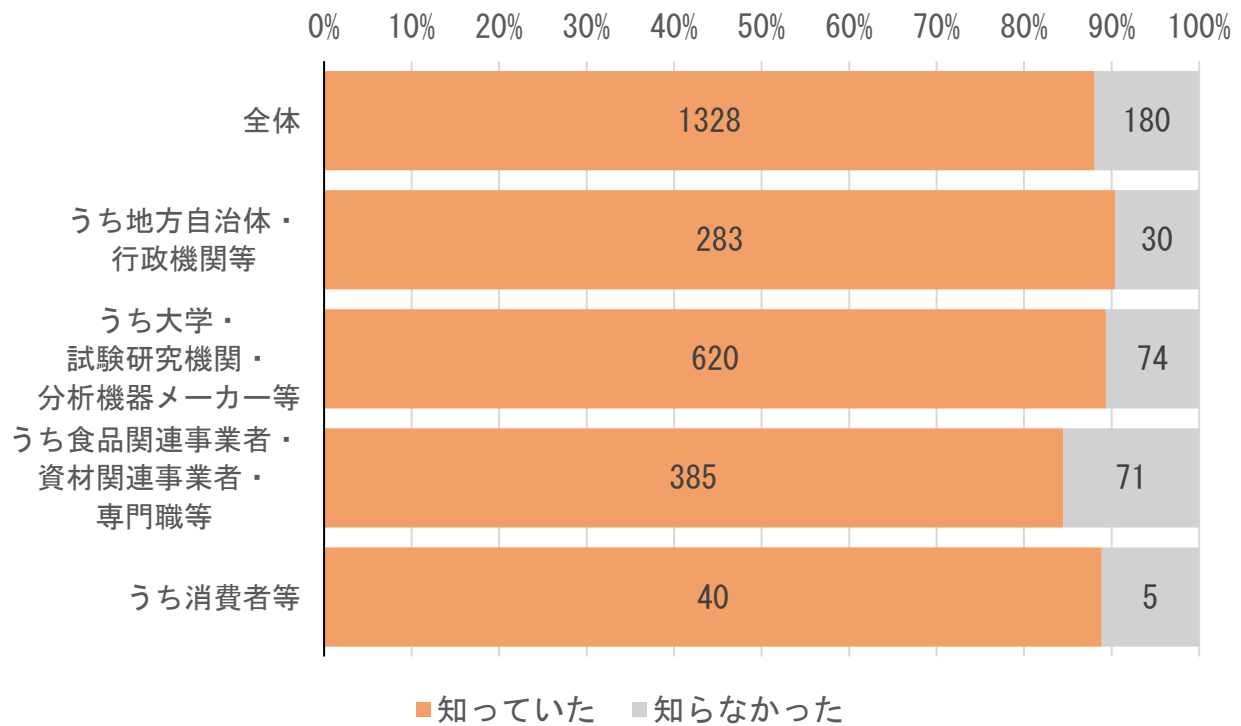
① 海産毒素



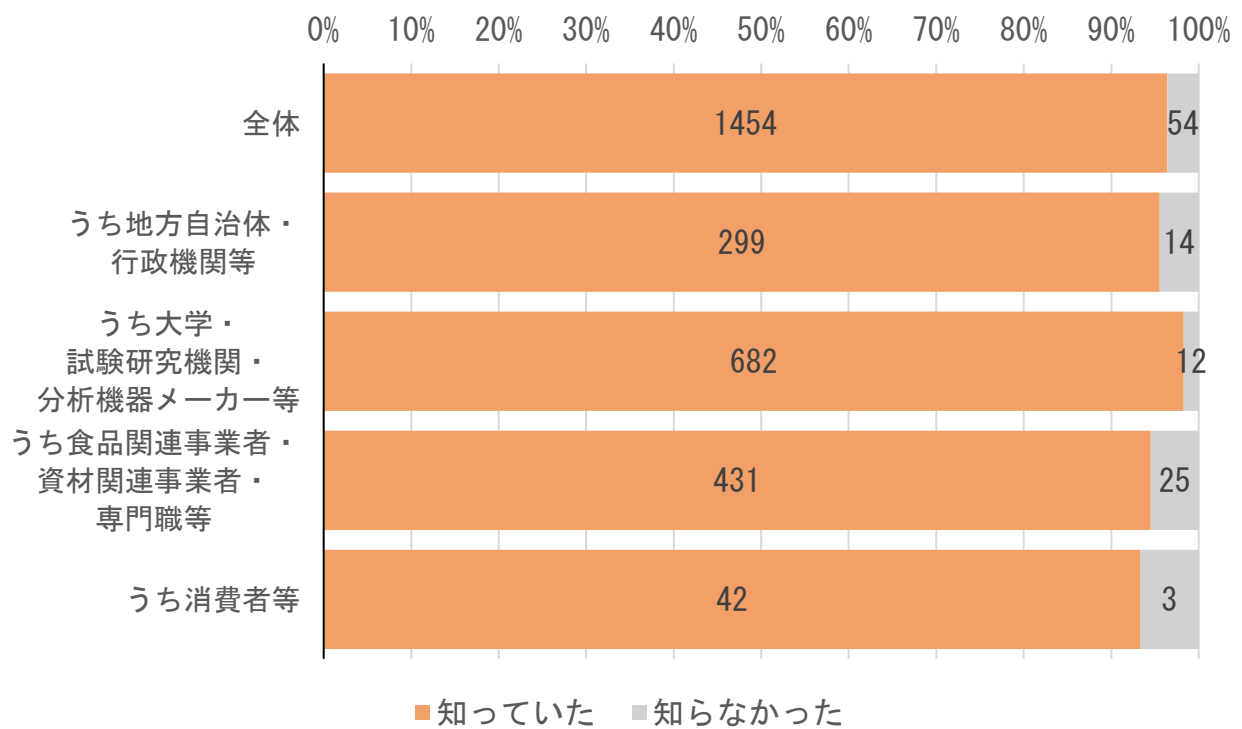
② かび毒



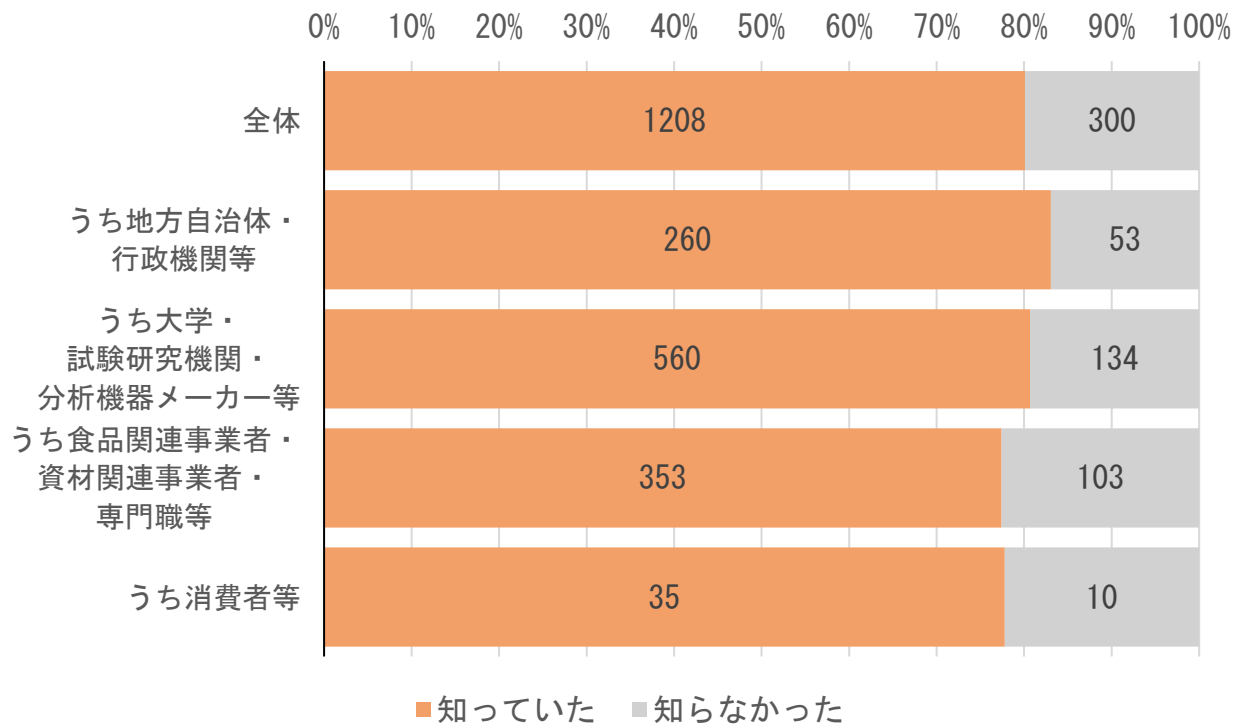
③ 植物性自然毒



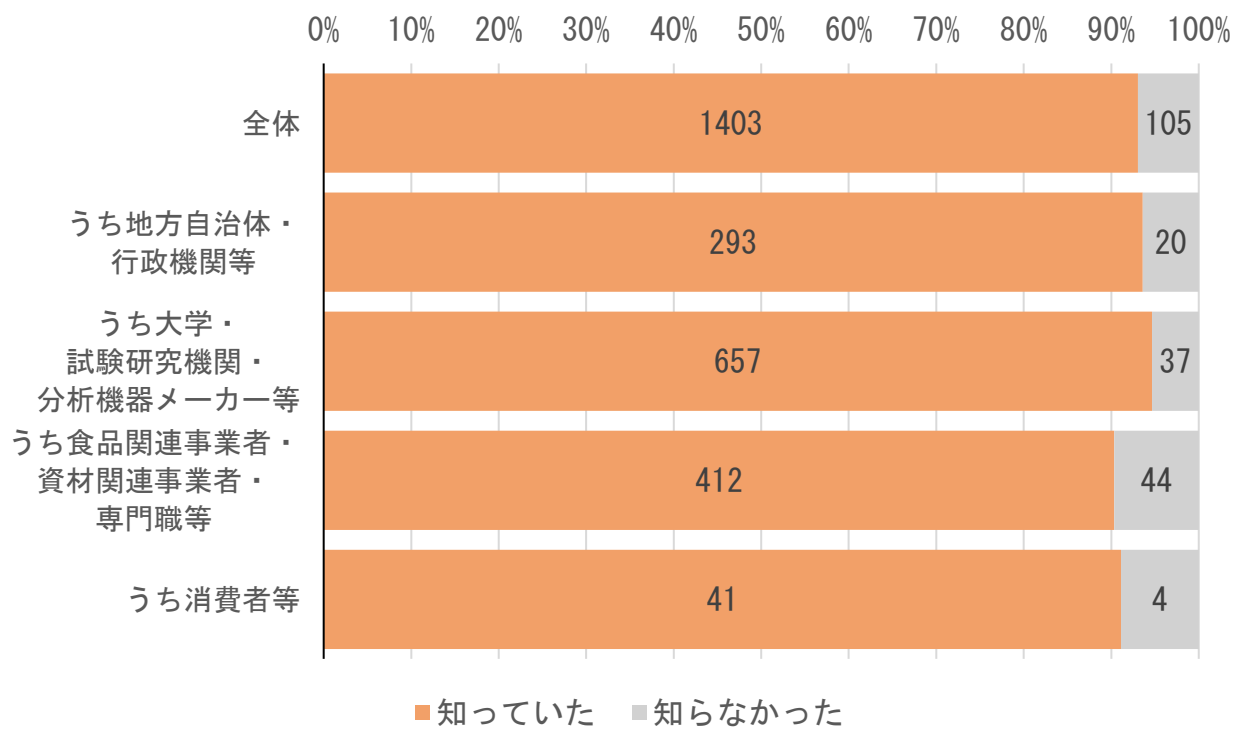
④ 重金属等



⑤ 食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物



⑥ その他の環境汚染物質

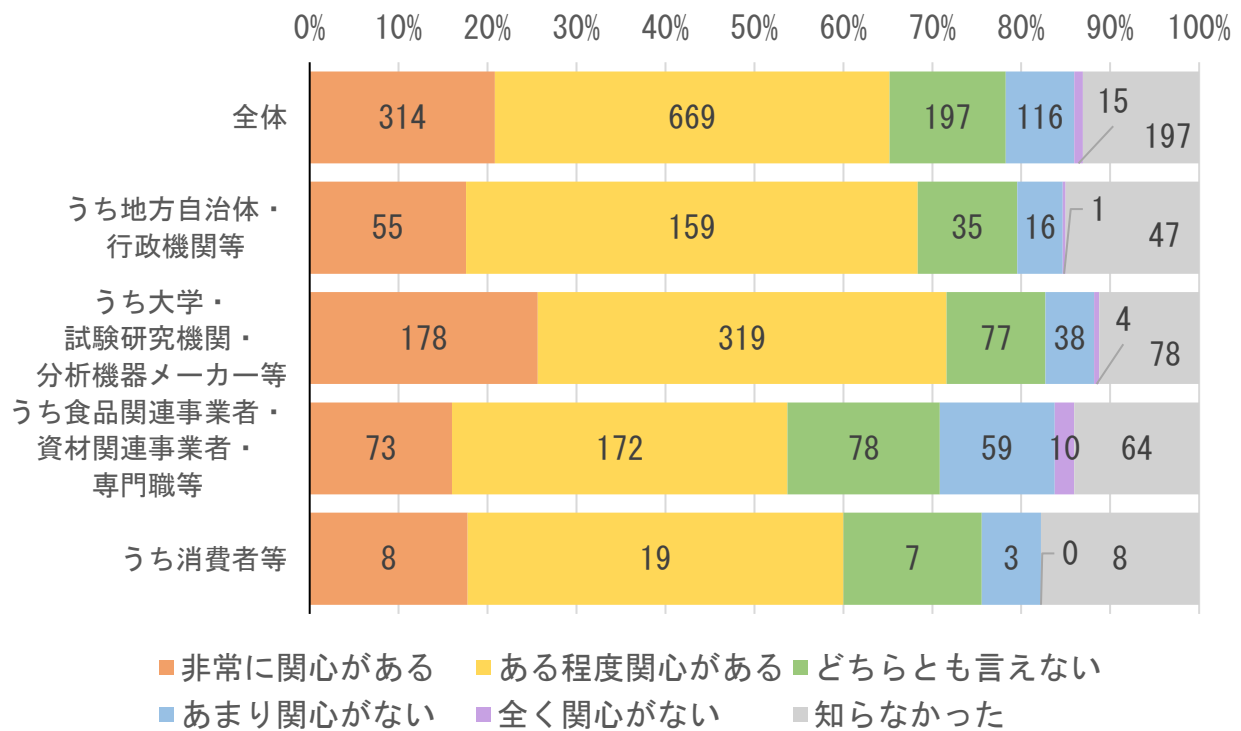


(4) 現在、優先的にリスク管理を行う対象としている有害化学物質ごとの関心の程度

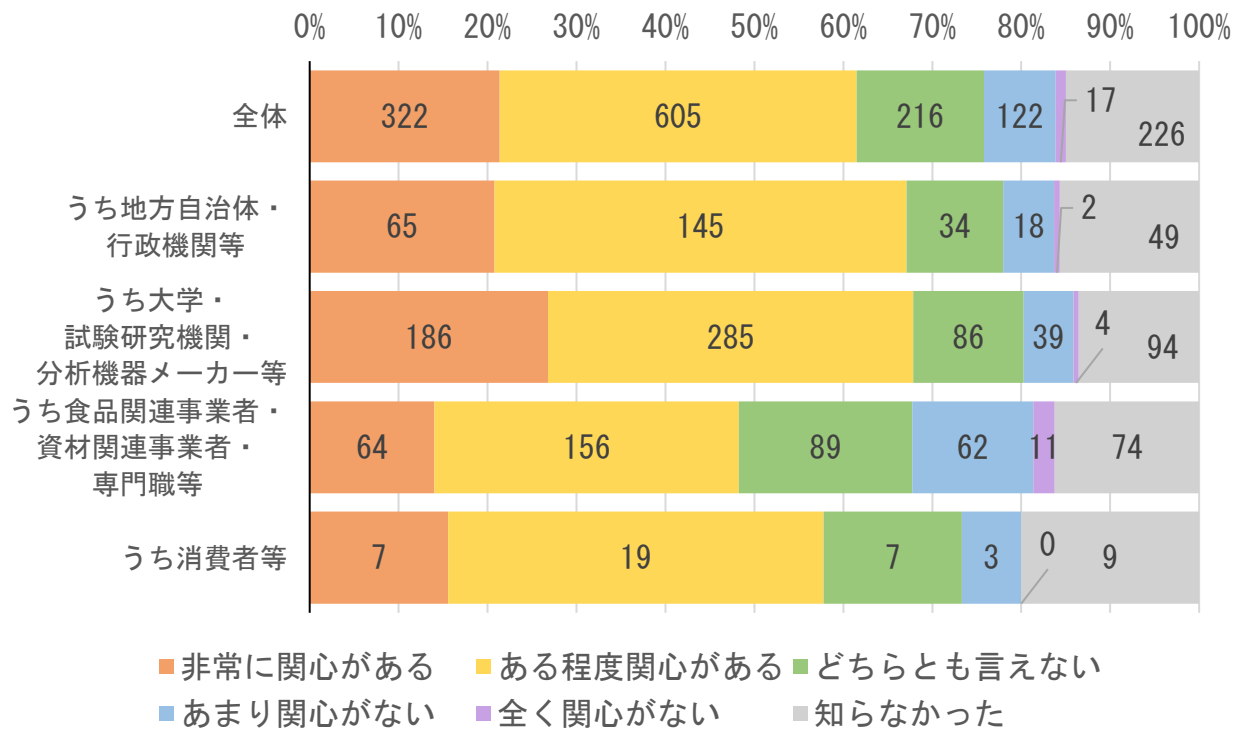
現行の優先リストに掲載されている有害化学物質ごとに、危害要因群について「知っていた」との回答者を対象に関心の程度を質問。危害要因群について「知らなかった」と回答した者は、個別の有害化学物質についても「知らなかった」として集計。

① 海産毒素

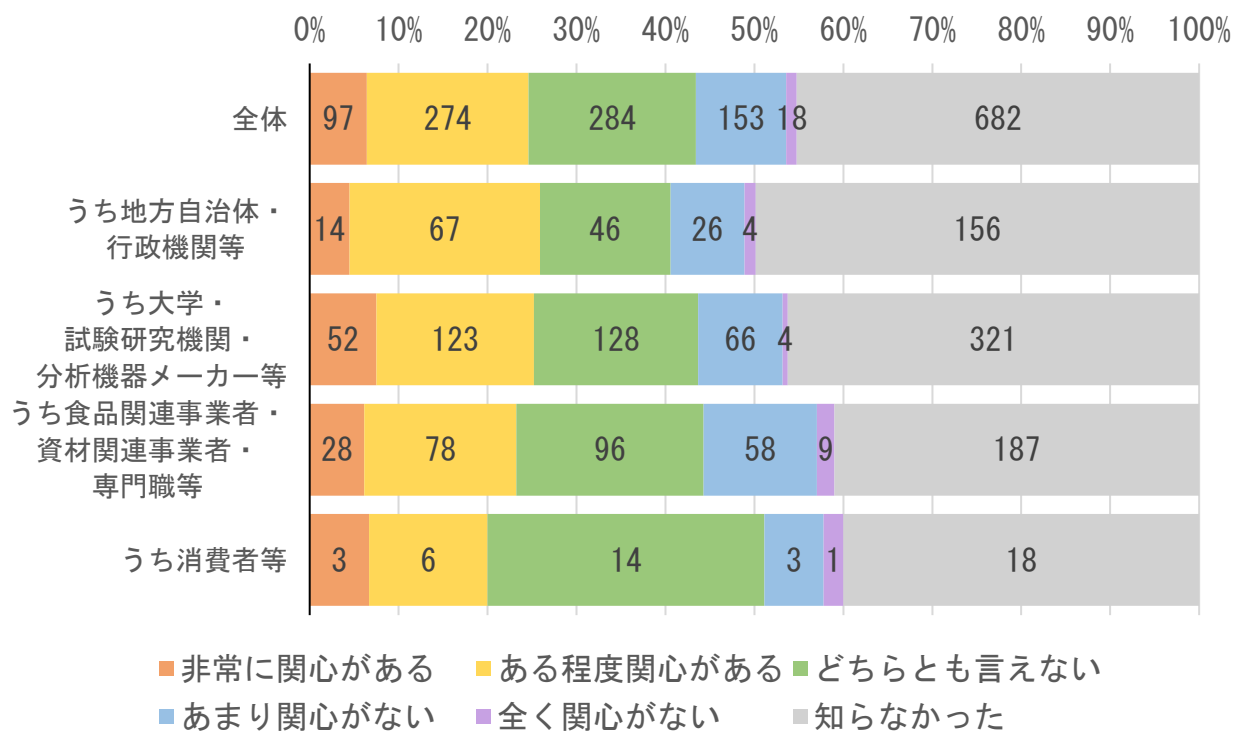
1) 下痢性貝毒



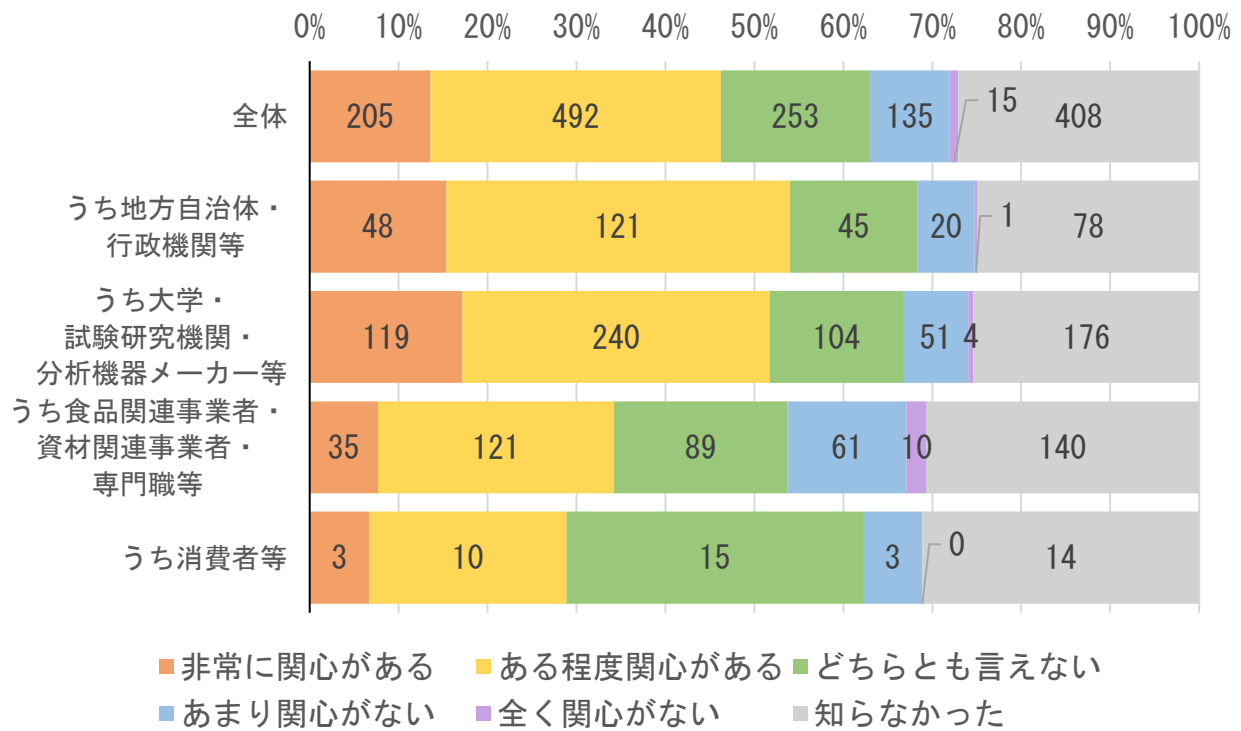
2) 麻痺性貝毒



3) アザスピロ酸

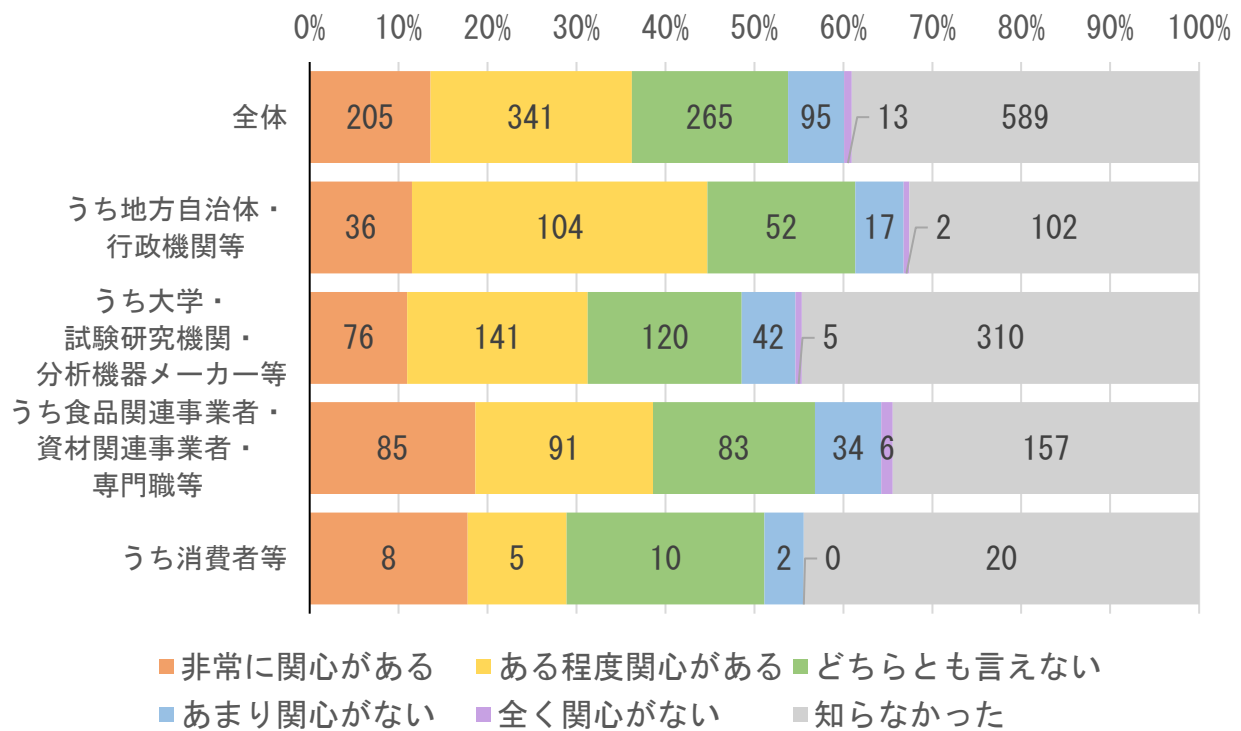


4) シガテラ毒

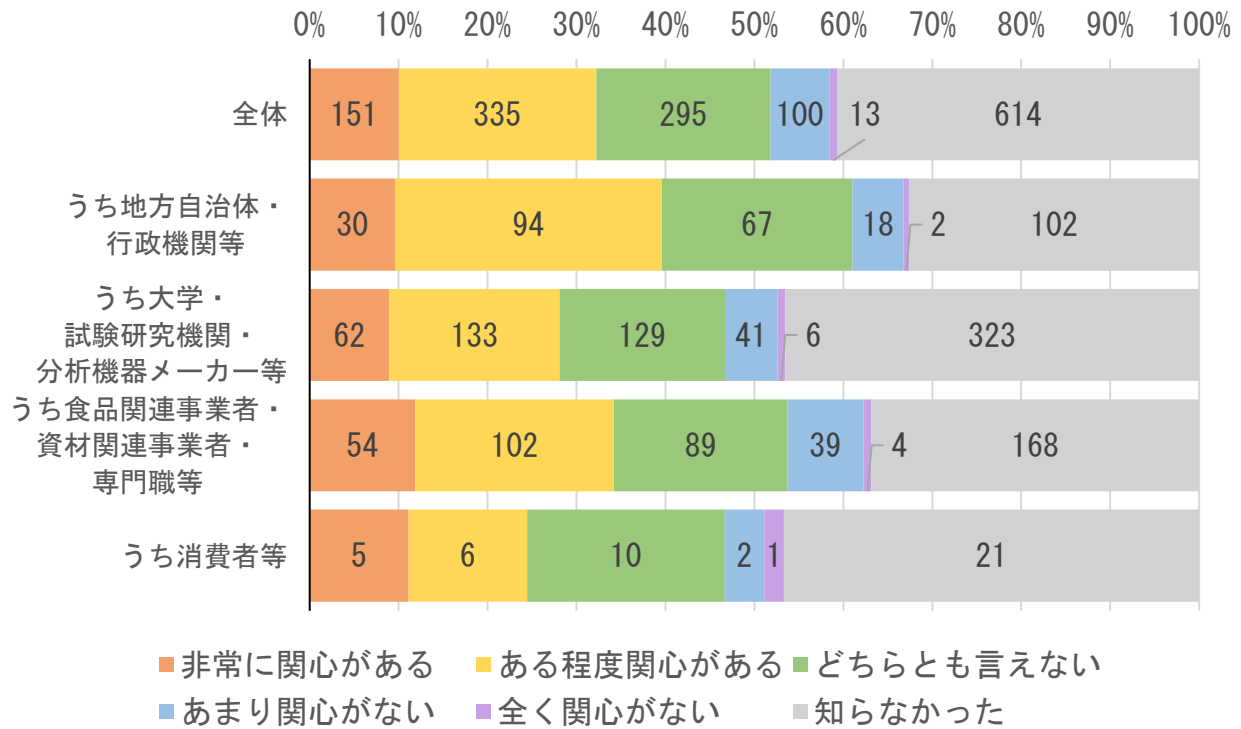


② かび毒

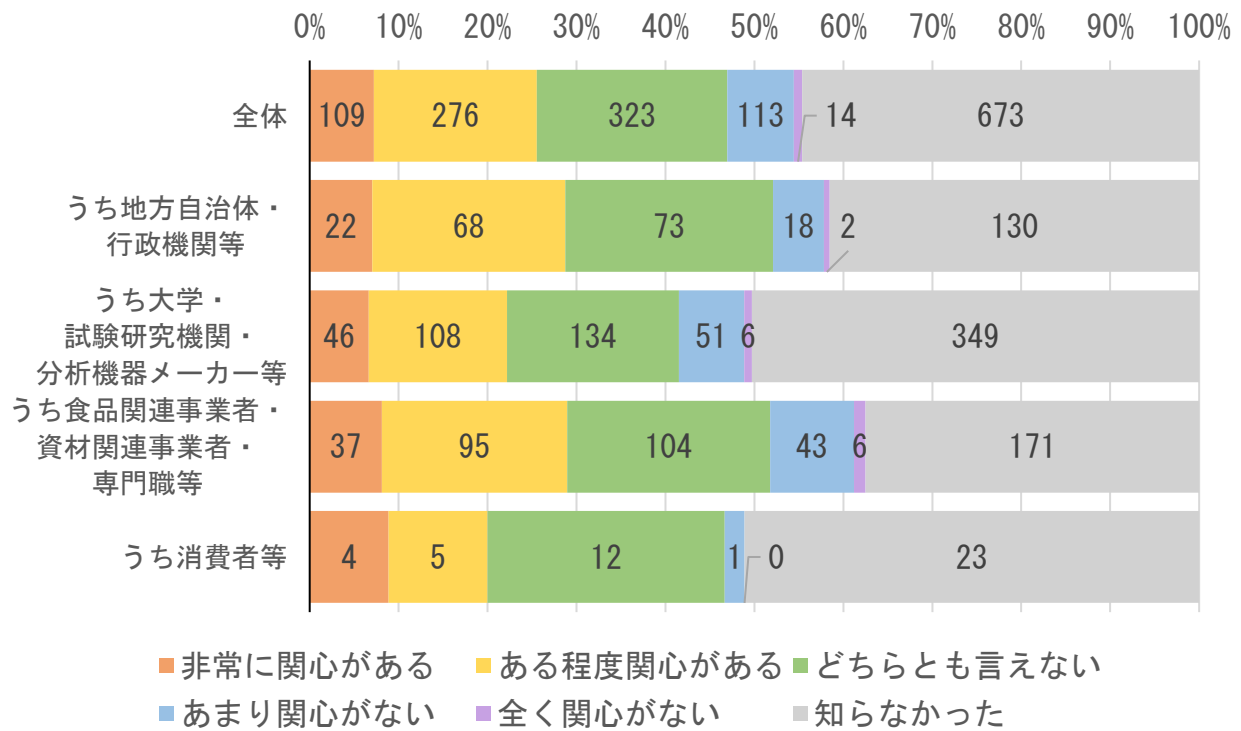
1) デオキシニバレノール (DON)、ニバレノール (NIV)



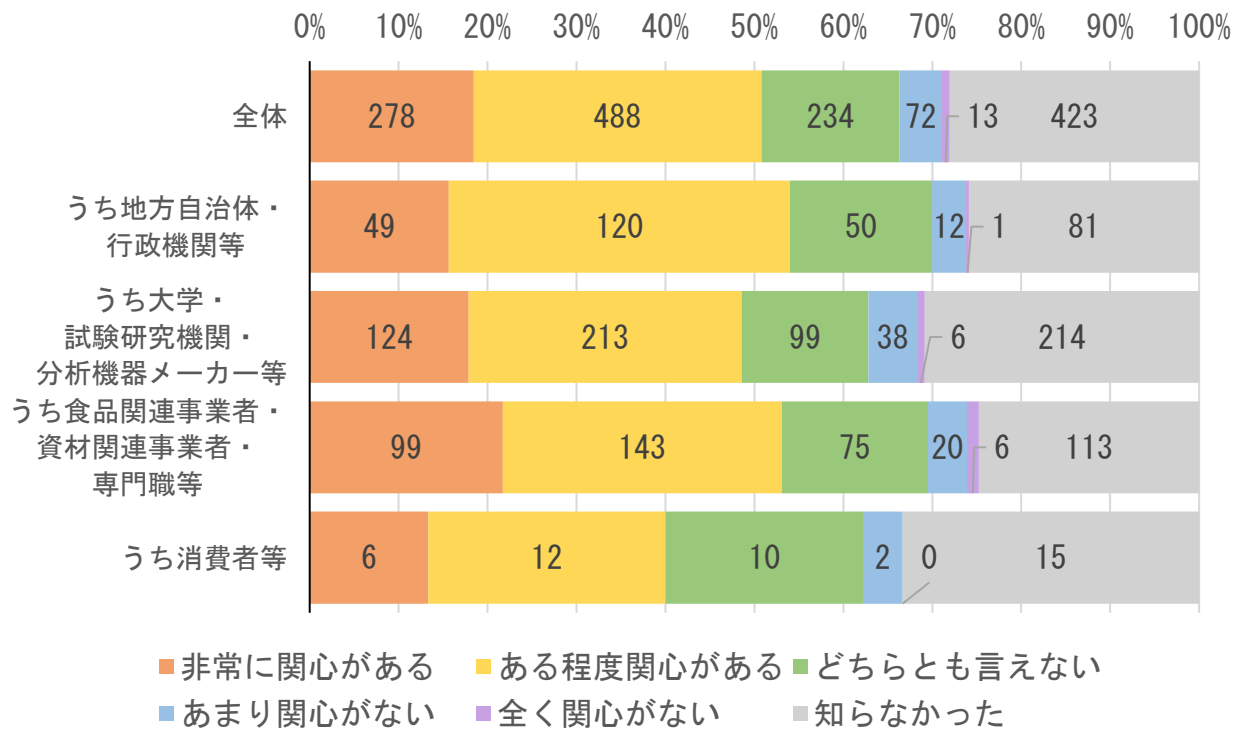
2) パツリン



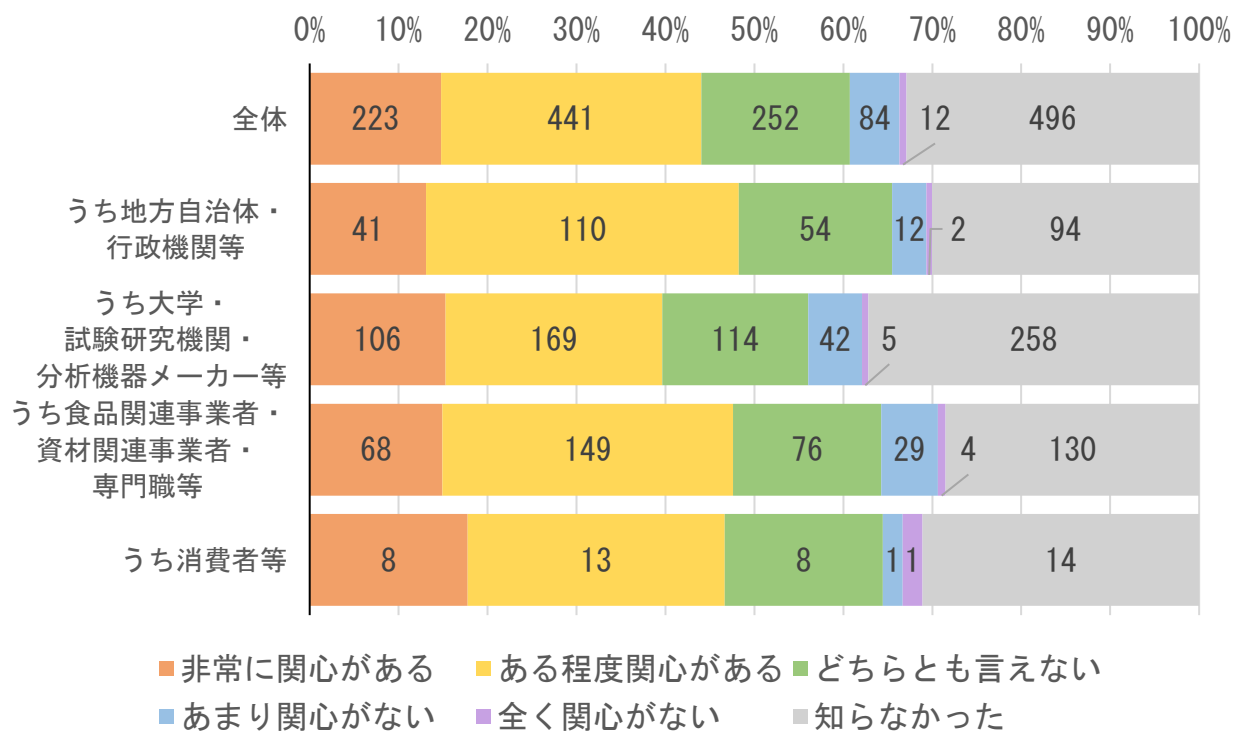
3) フモニシン類



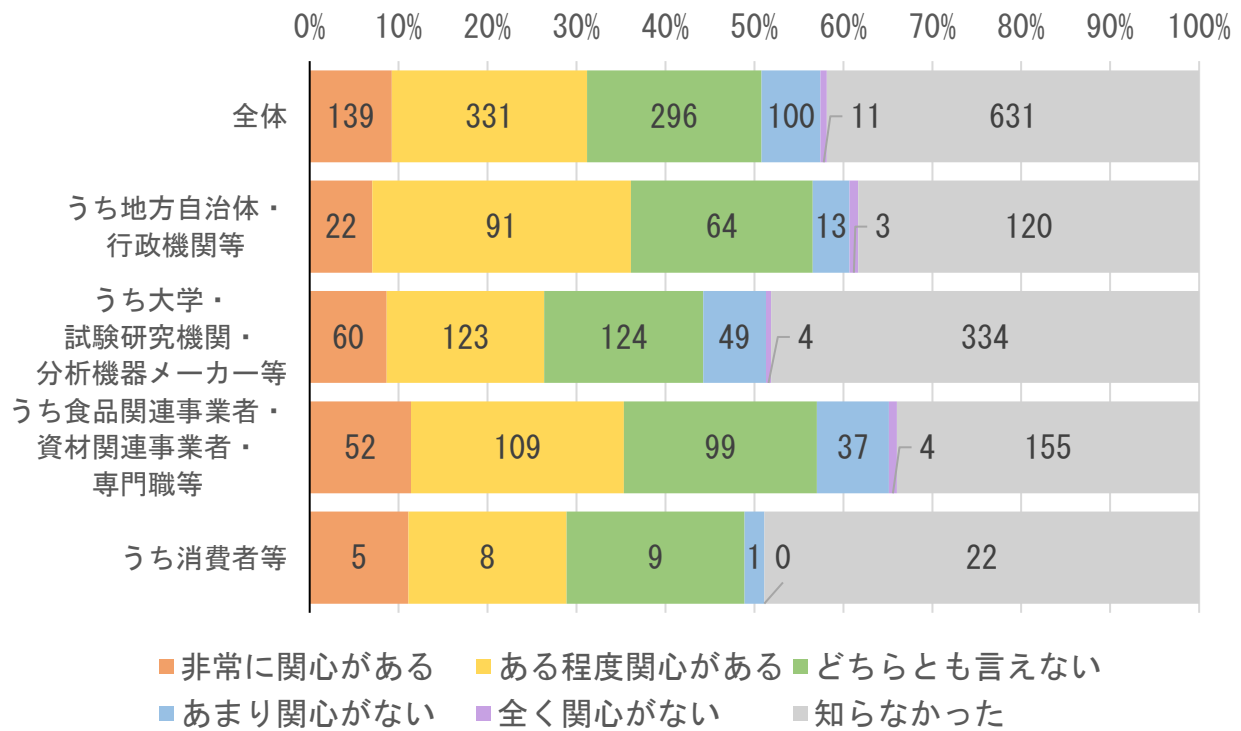
4) 総アフラトキシン



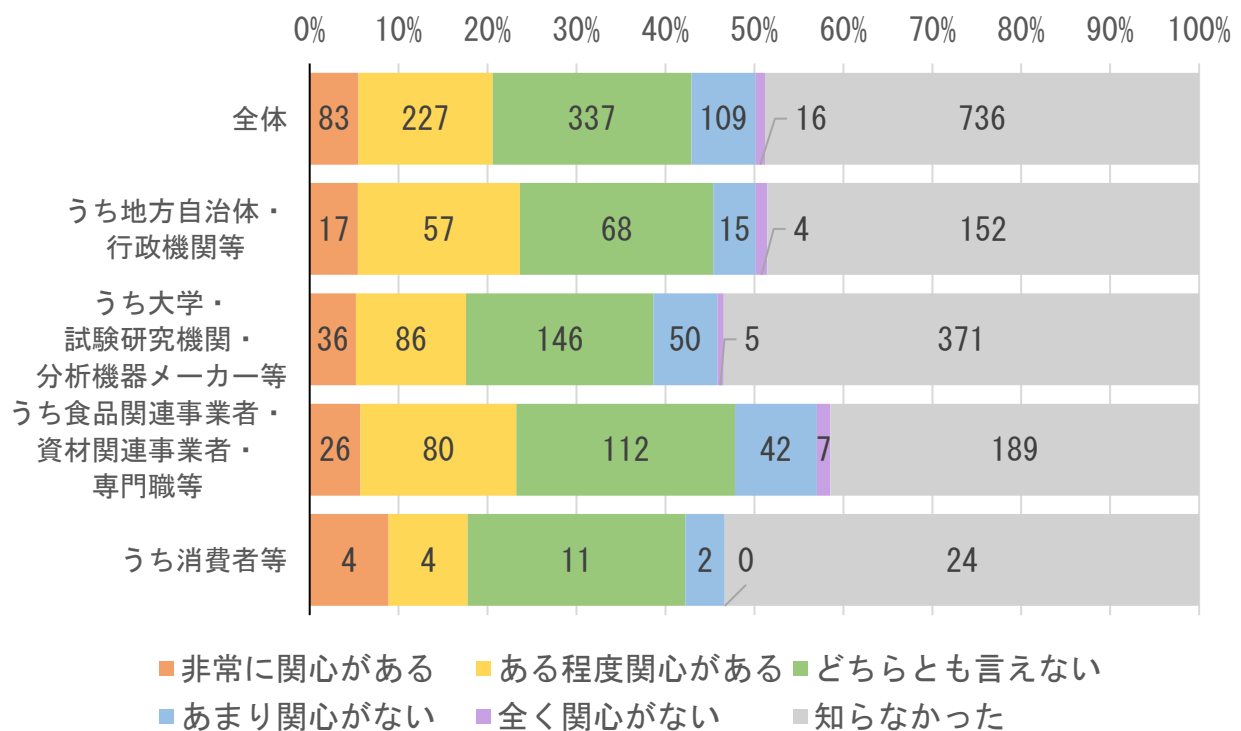
5) アフラトキシン M₁



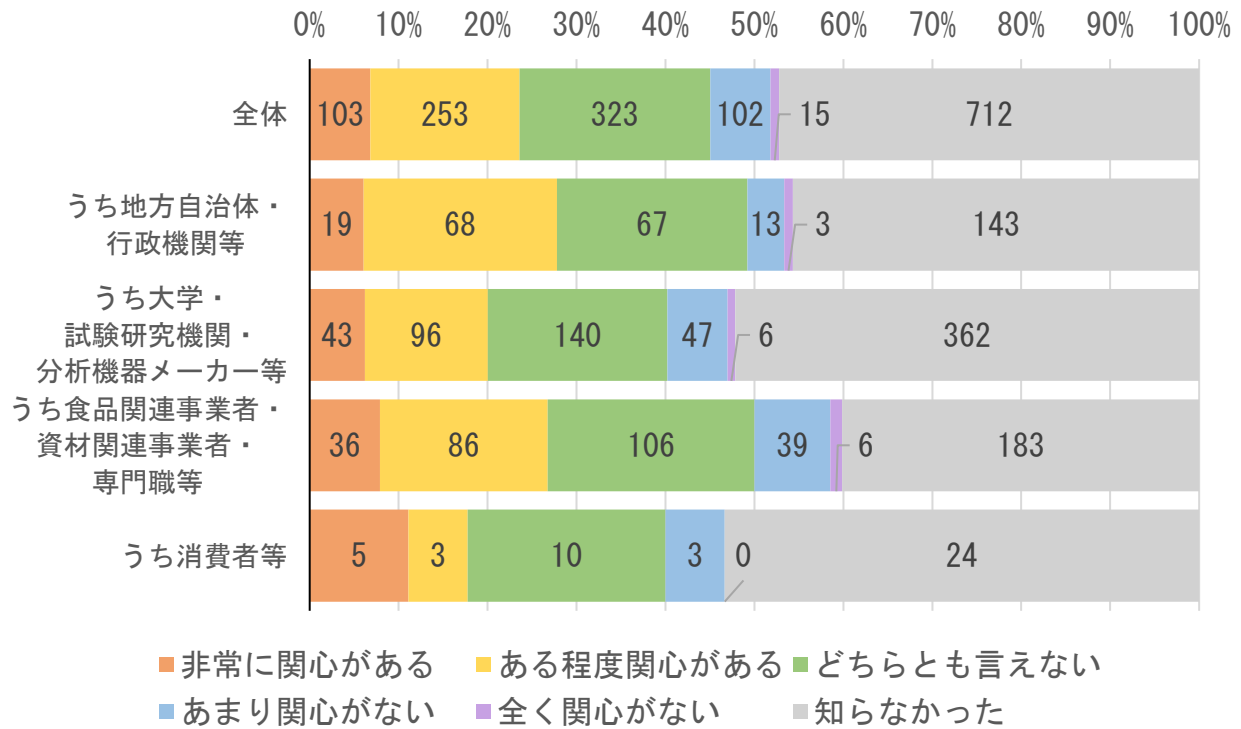
6) オクラトキシン A (OTA)



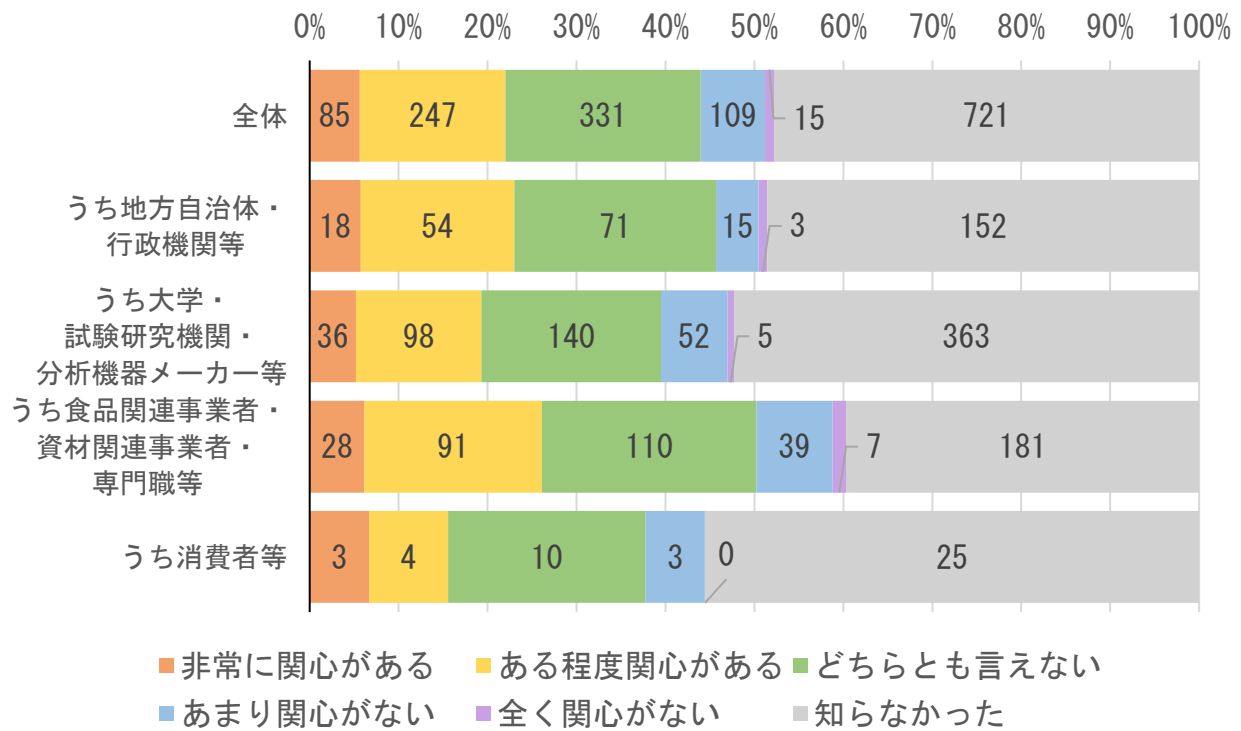
7) ステリグマトシスチン



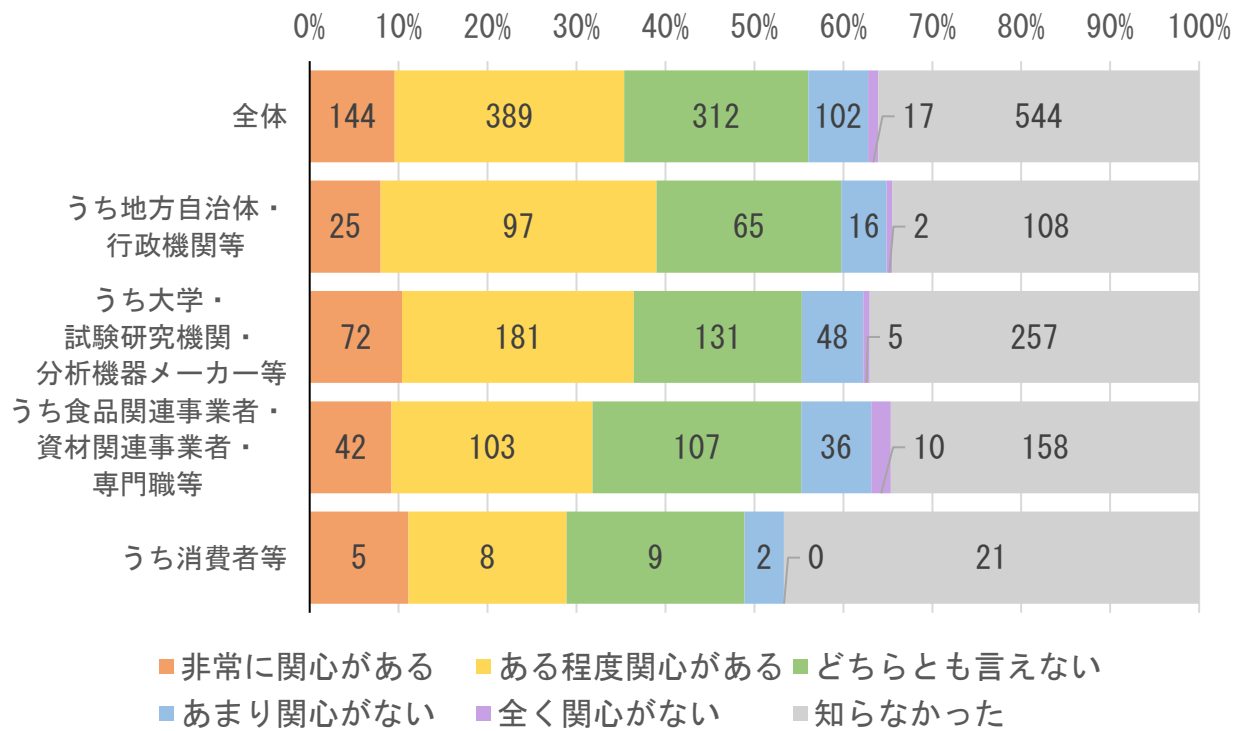
8) ゼアラレノン



9) T-2 トキシン (T2)、HT-2 トキシン (HT2)、ジアセトキシシルペノール (DAS)

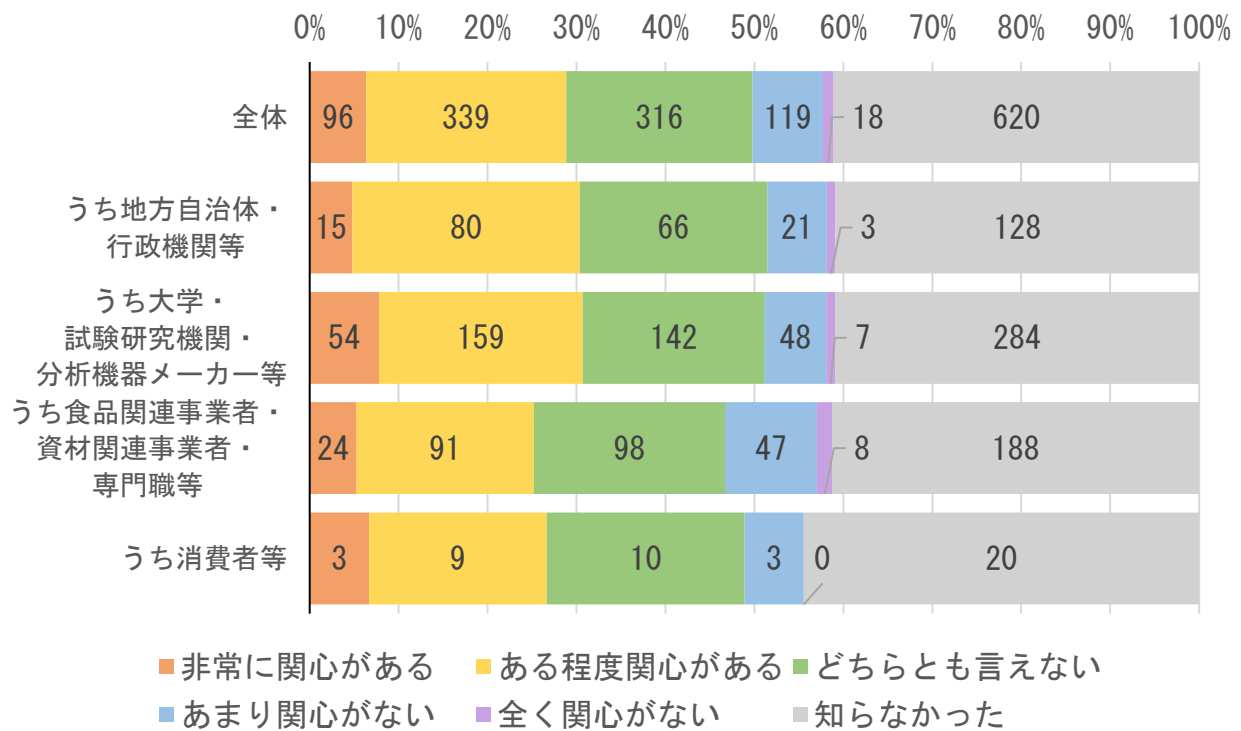


10) 麦角アルカロイド類



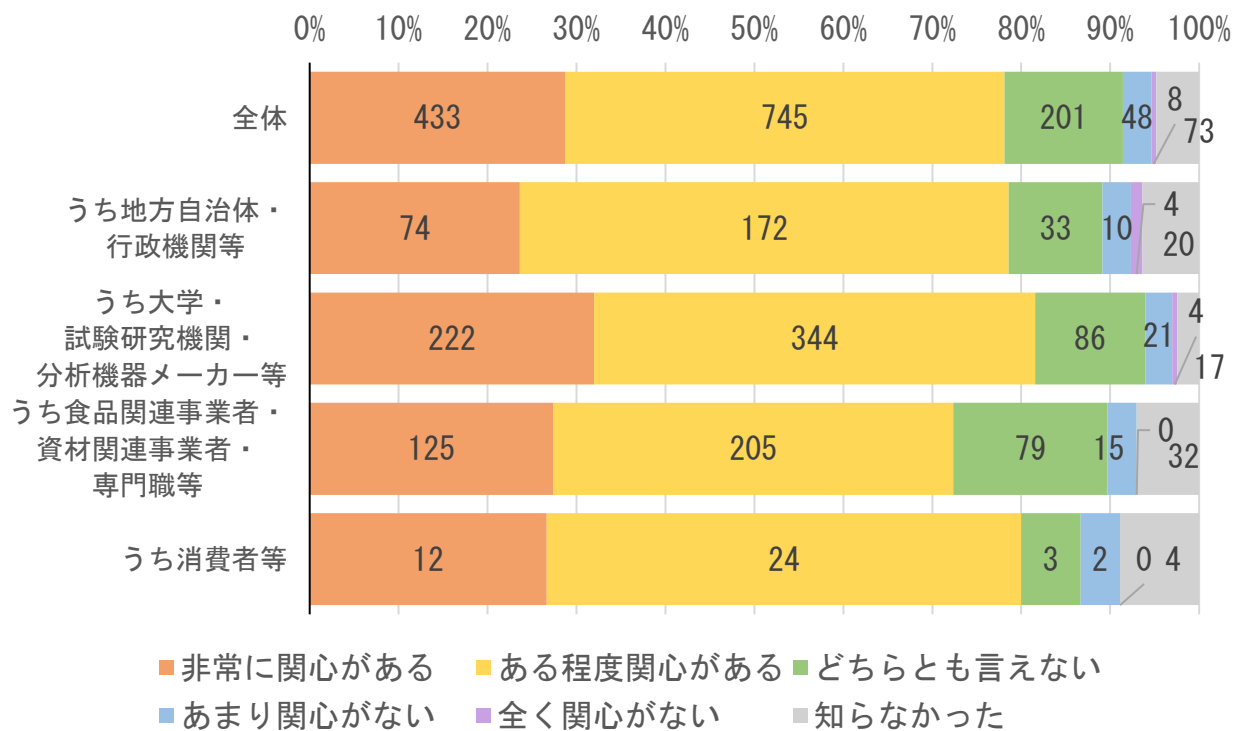
③ 植物性自然毒

1) ピロリジジナルカロイド類

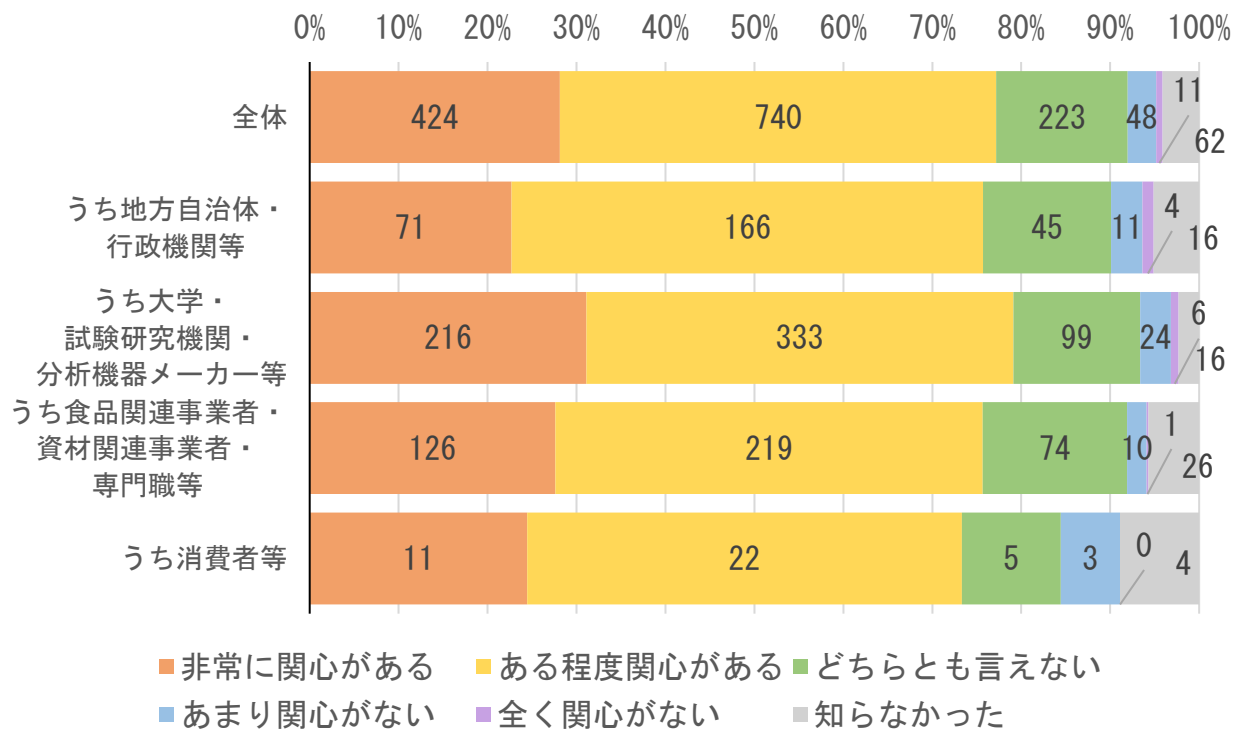


④ 重金属等

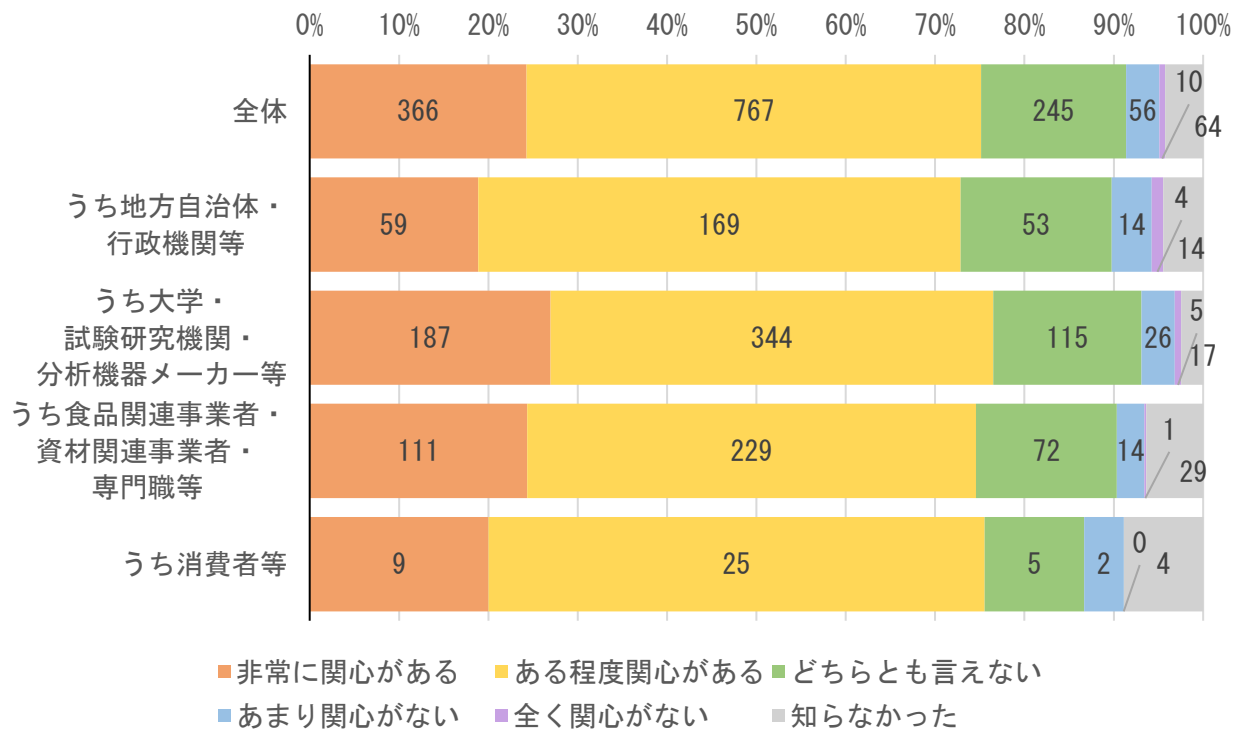
1) カドミウム



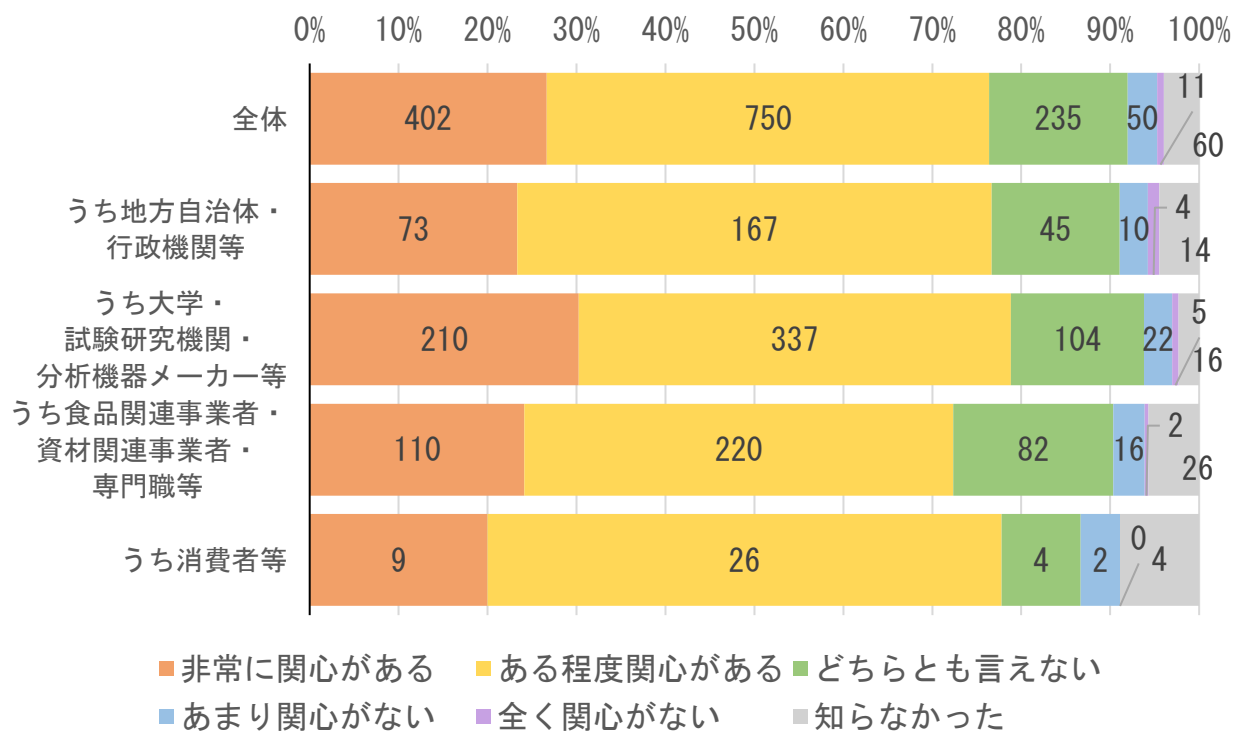
2) ヒ素



3) 鉛

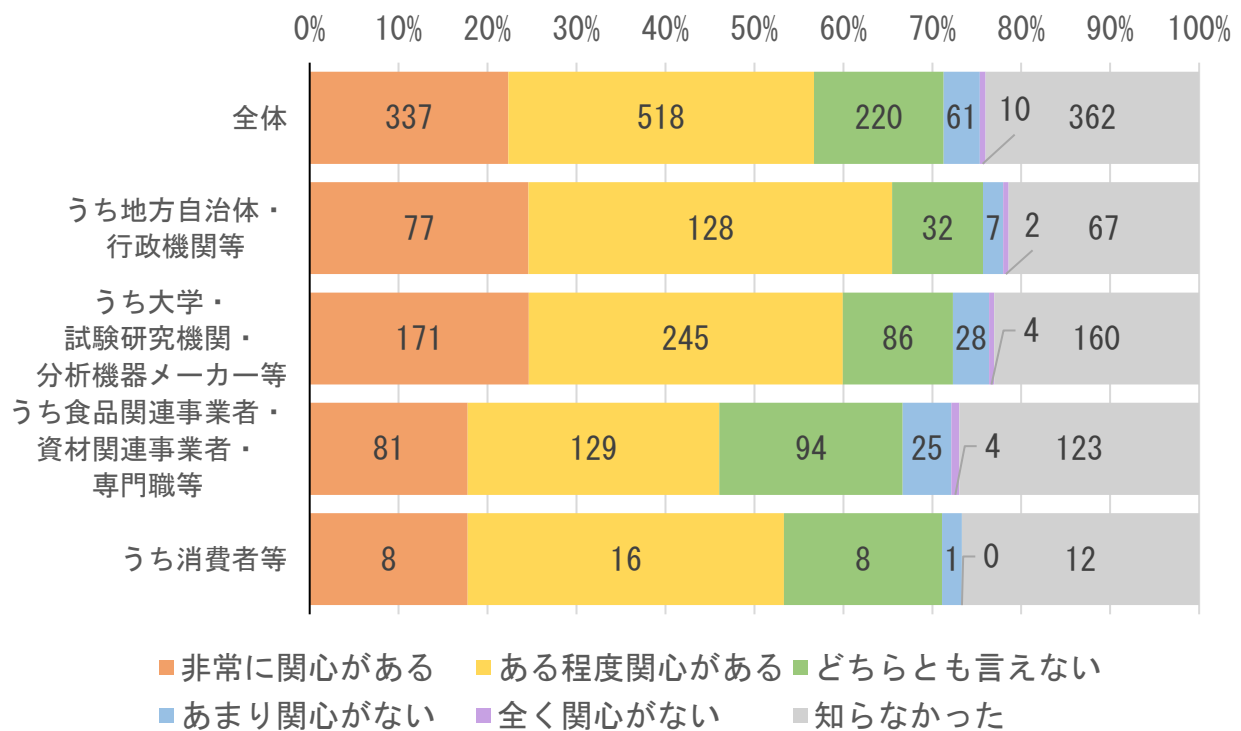


4) 水銀

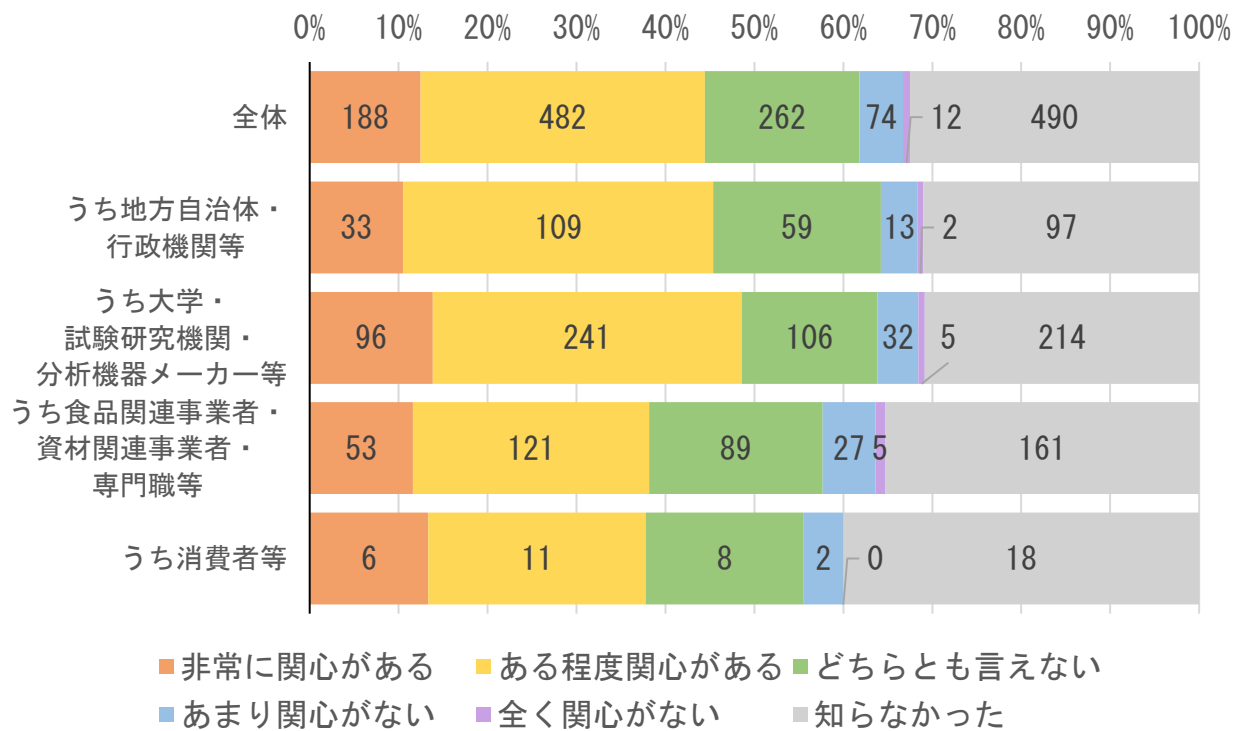


⑤ 食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物

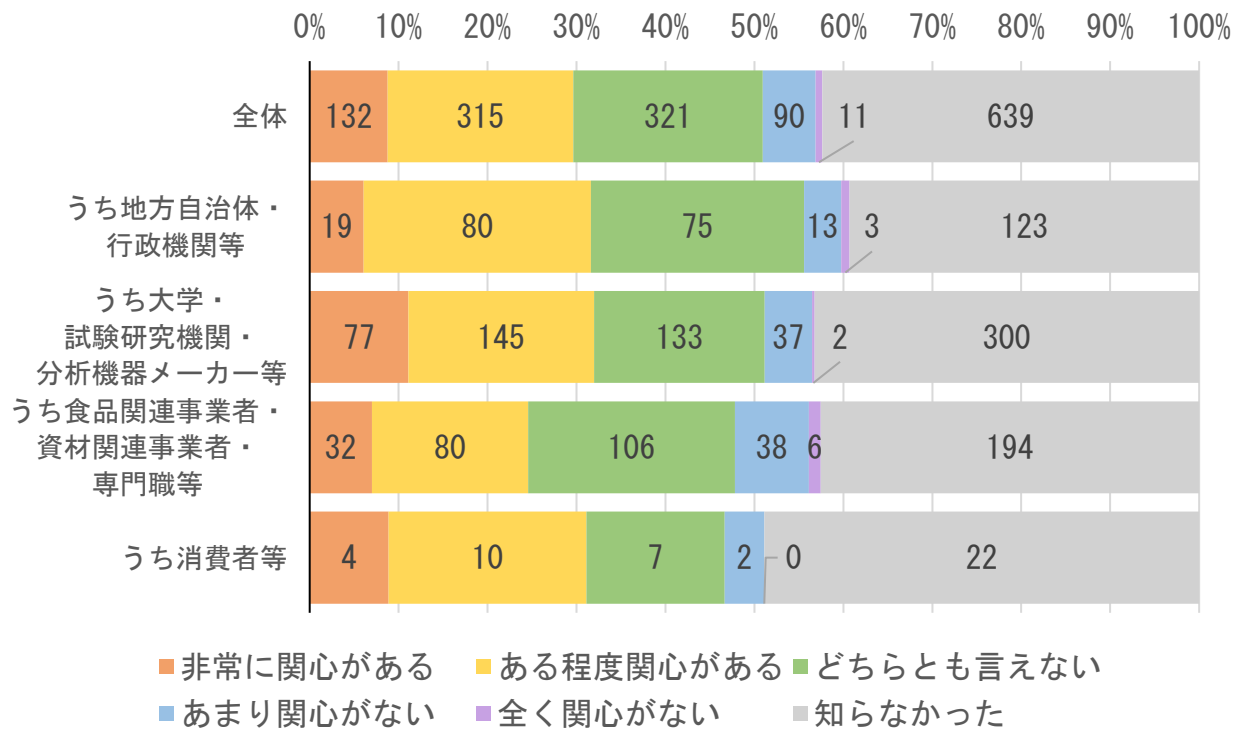
1) ヒスタミン



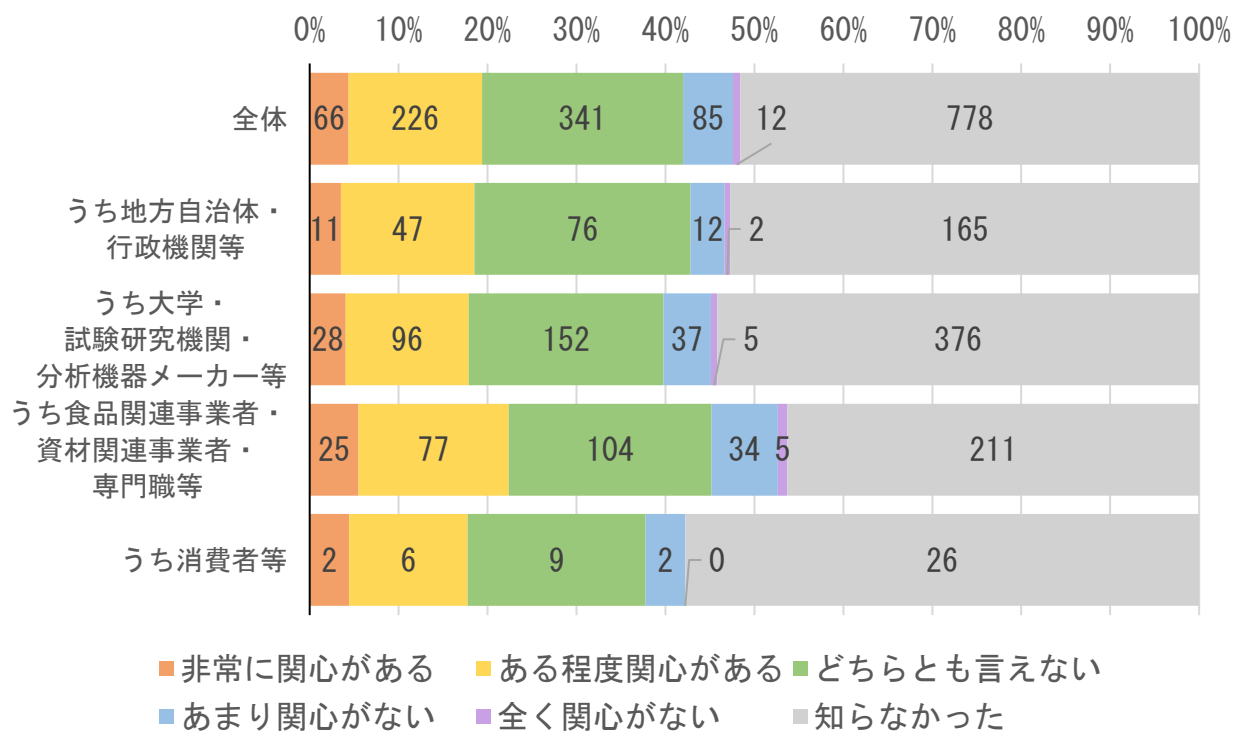
2) アクリルアミド



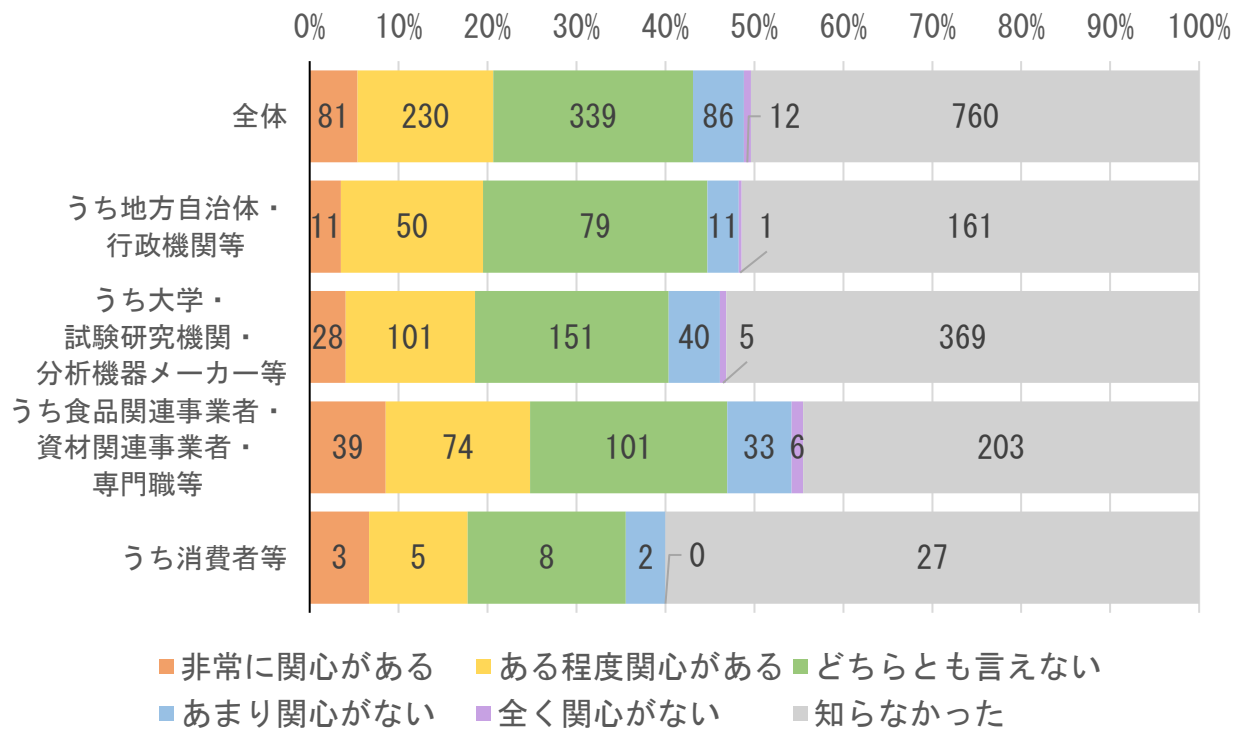
3) ベンゾ[a]ピレン (PAH)



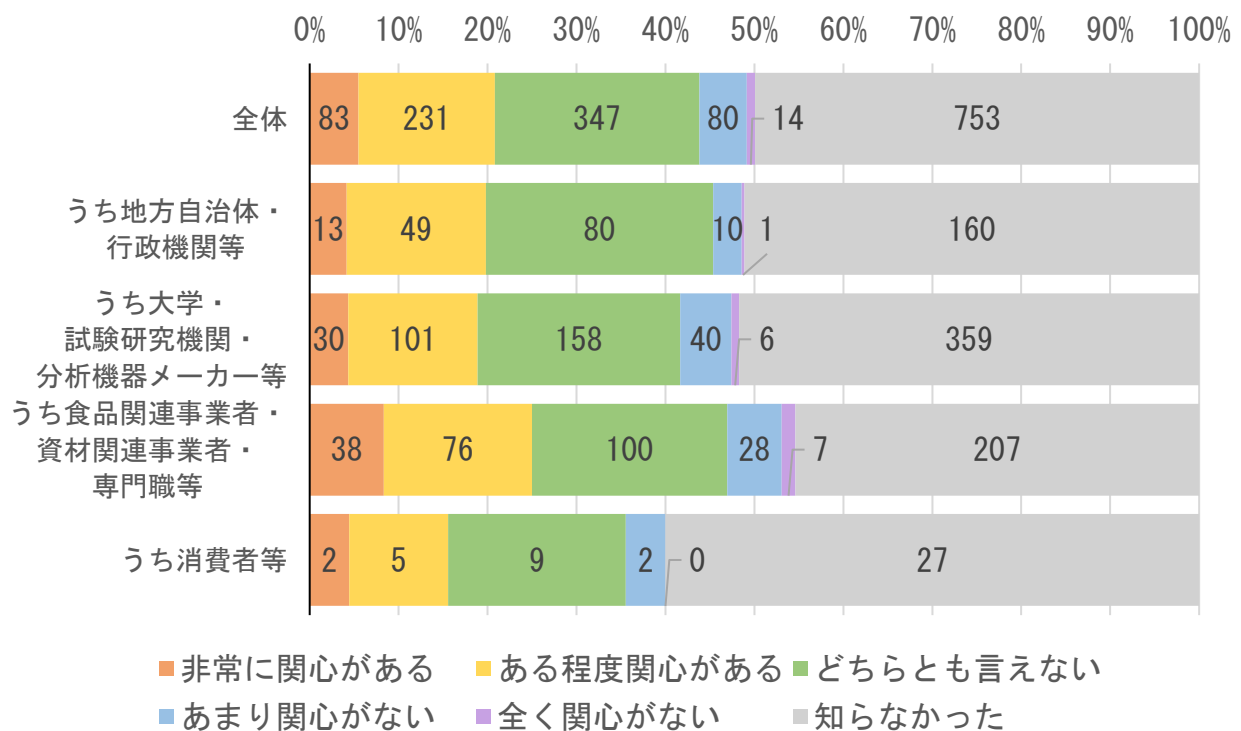
4) 3-モノクロロプロパン-1,2-ジオール (3-MCPD)



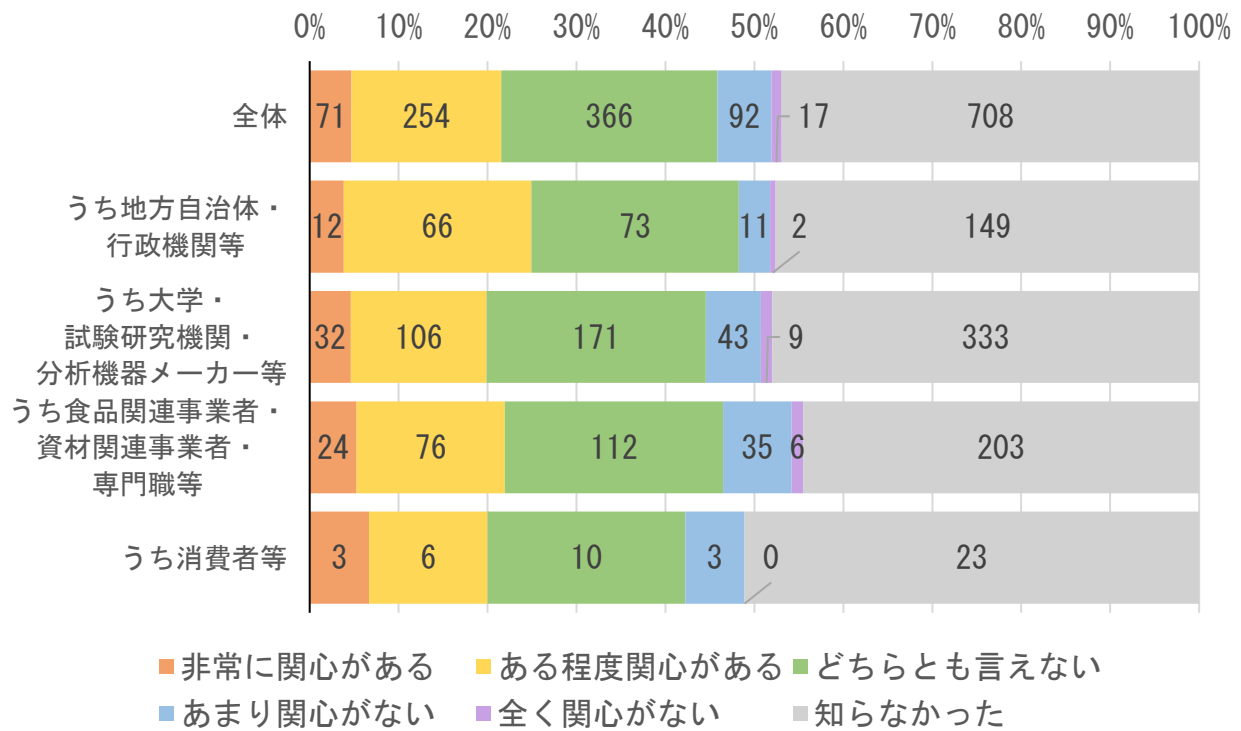
5) 3-MCPD 脂肪酸エステル類 (3-MCPDE)



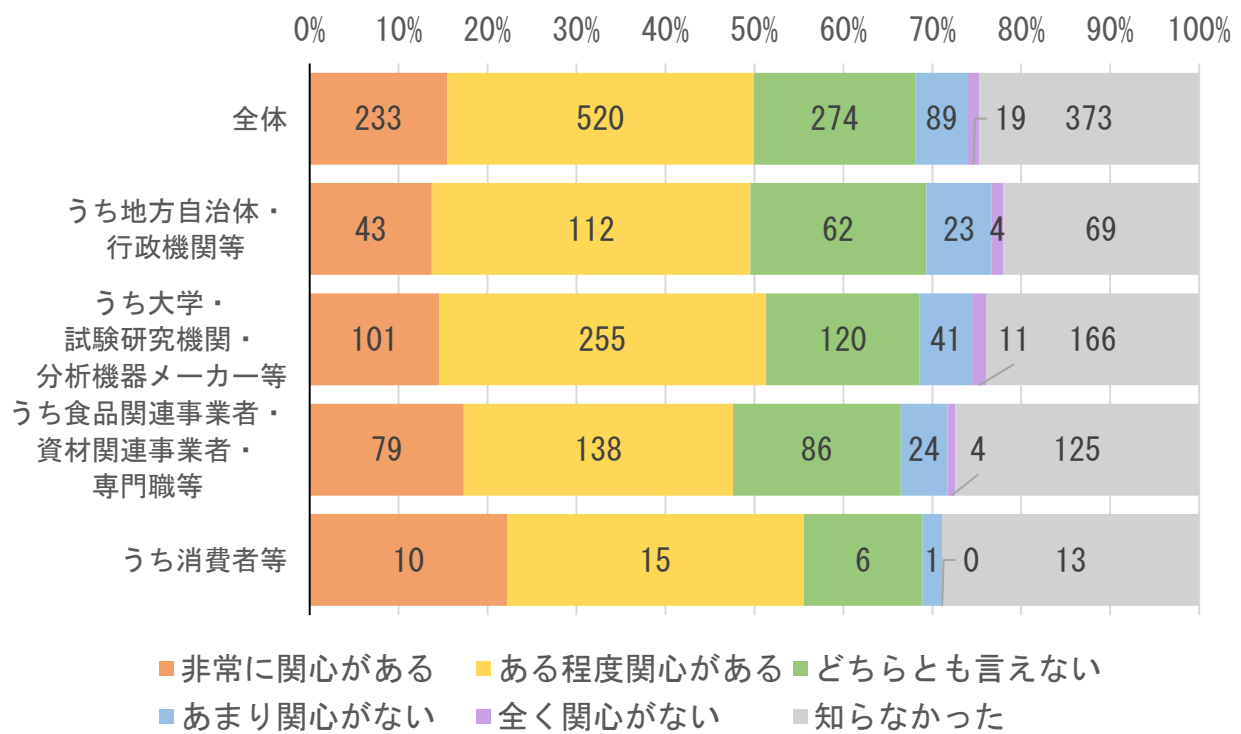
6) グリシドール脂肪酸エステル類 (GE)



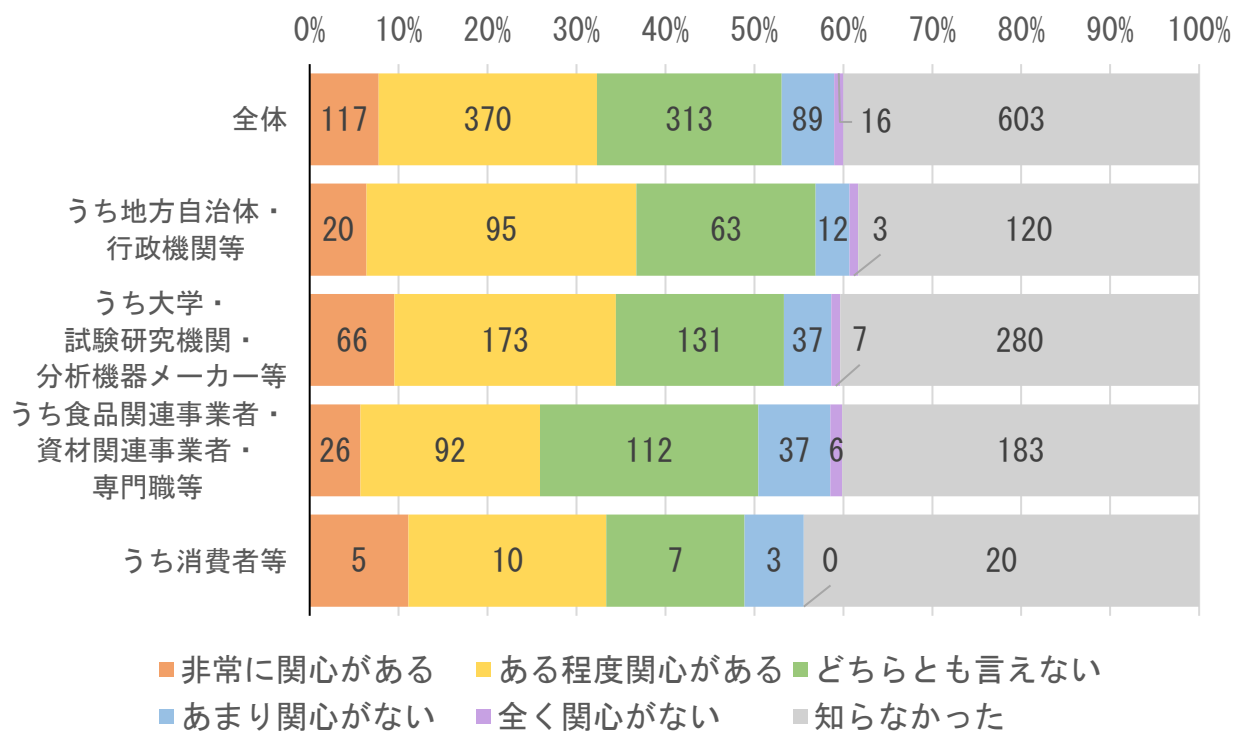
7) フラン



8) トランス脂肪酸

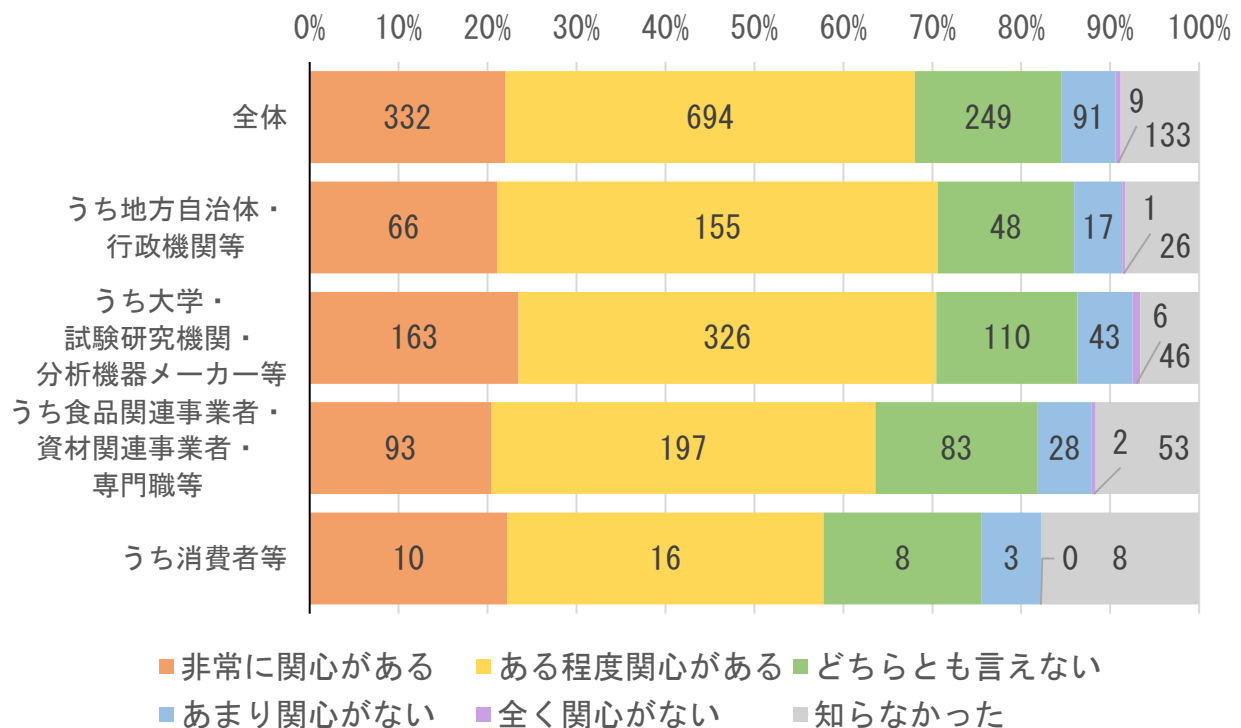


9) ニトロソアミン類

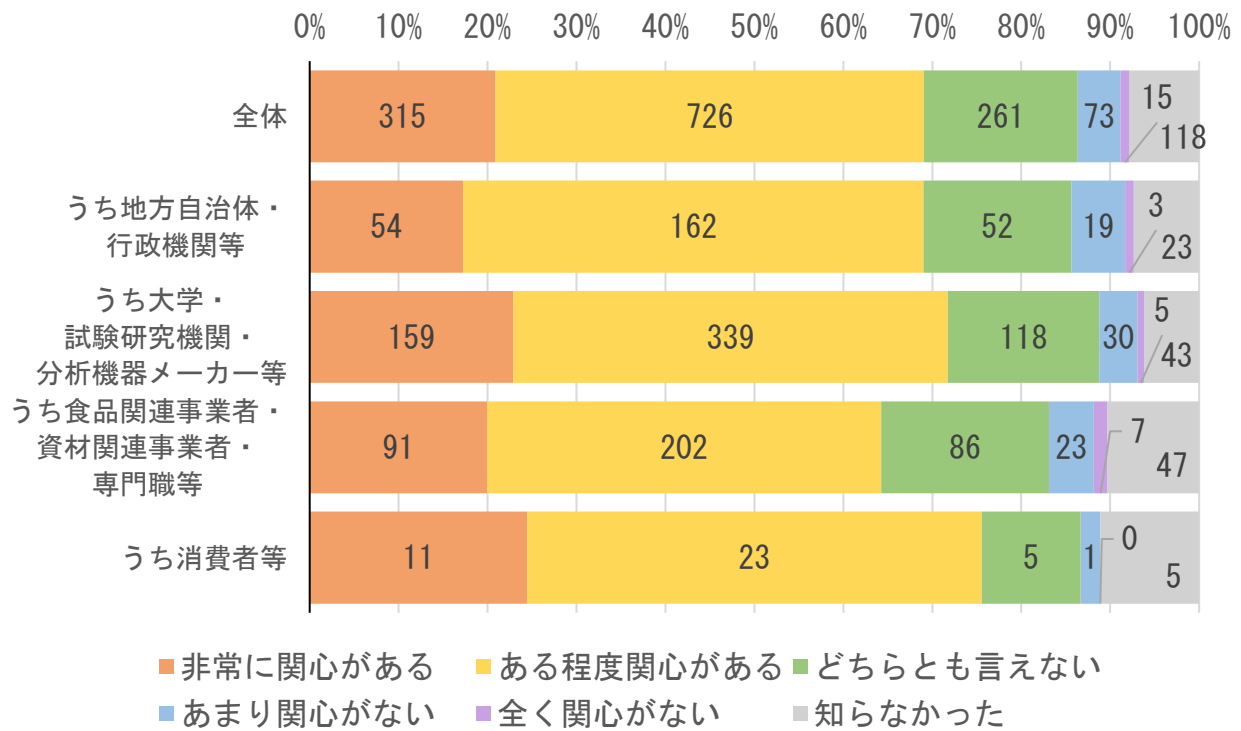


⑥ その他の環境汚染物質

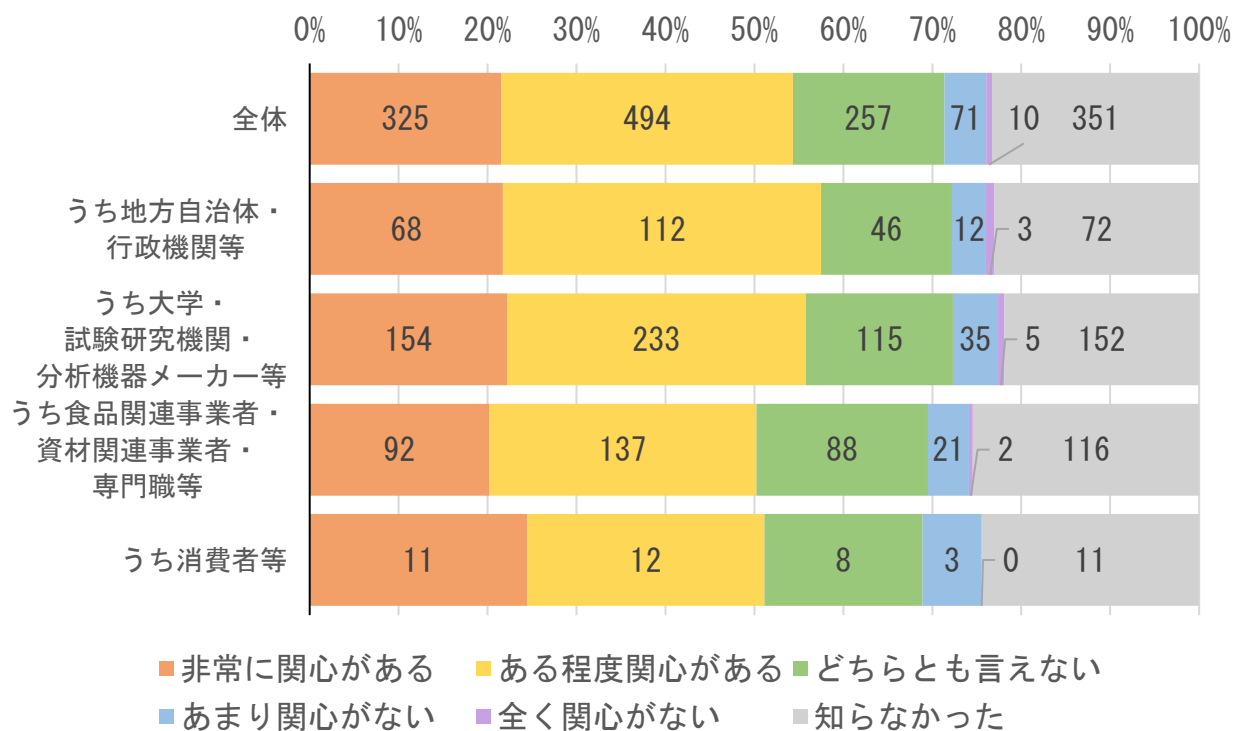
1) 放射性セシウム



2) ダイオキシン類



3) パーフルオロアルキル化合物 (PFAS)



(5) その他の食品安全の観点から関心がある有害化学物質について

農林水産省が優先的にリスク管理を行う危害要因として検討すべき候補物質とするため、自由記入形式で関心がある危害要因について理由とともに回答を求めた。

その結果、延べ約 600 件の回答が寄せられたため、別途、それらの危害要因への対応の考え方を整理した。

4. 結果の分析、考察

- 危害要因群の中で、もっとも認知度が高いのは重金属等であった（回答者の 96%が知っているという回答）。また、重金属等のうち、現行の優先リストに掲載しているカドミウム、ヒ素、鉛、水銀の 4 元素についても、同様に高い認知度であった。
- これらの 4 元素は、いずれの属性においても関心度（関心度については別紙 2 を参照）が 7 割を超えており、食品安全における関心が高いことが確認された。
- 危害要因群の中で、重金属等に次いで認知度が高いのはかび毒であった（回答者の 94%が知っているという回答）。一方で、食品安全上、問題となり得る個別のかび毒の名称については、知らないとする回答者が比較的多く、認知度については総アフラトキシンのみが回答者全体の 7 割を超えており、その他のかび毒の認知度は 5 割～6 割程度であった。
- 各かび毒の関心度については、総アフラトキシンのみが関心がある者が 7 割を超えており、その他の現行の優先リストに掲載しているかび毒の関心度は 4～6 割前後であった。
- 環境汚染物質についても危害要因群の中では認知度が高く、かび毒と同程度の認知度を示した（回答者の 93%が知っているという回答）。現行の優先リストに掲載している環境汚染物質のうち、放射性セシウム、ダイオキシン類についての認知度も 9 割を超えていた。一方で、パーフルオロアルキル化合物（PFAS）については、認知度は全体、いずれの属性でも 8 割を下回る水準であった。
- 各環境汚染物質の関心度は、放射性セシウム、ダイオキシンではいずれの属性でも 7 割を超えており、PFAS についても全体で約 7 割と高いことが確認された。
- 海産毒素についても、回答者の 90%が知っているという回答しており、危害要因群としての認知度は比較的高いことが確認された。一方で、食品安全上、問題となり得る個別の海産毒素の名称の認知度には、かび毒の場合と同様に毒素により大きな差があり、現行の優先リストに掲載している海産毒素の中では、下痢性貝毒、麻痺性貝毒についてはいずれの属性でも 8 割、シガテラ毒については 7 割前後の高い認知度であったが、アザスピロ酸の認知度は全体で約 5 割であった。
- 各海産毒素の関心度は、下痢性貝毒、麻痺性貝毒は 7 割を超えており、食品安全上の問題としての関心の高さが確認された。認知度が低かったアザスピロ酸については関心度も 5 割を下回っていた。シガテラ毒については自治体や研究者の関心度は比較的高い一方で、食品関連事業者や消費者の関心度は低く、属性により差があることが示唆された。
- 植物性自然毒の危害要因群としての認知度は全体の 88%が知っているという回答している一方で、現行の優先リストに掲載しているピロリジジンアルカロイド類についての認知度はいずれの属性でも 6 割を下回っていた。植物性自然毒については、毒きのこや有毒植

物による食中毒がしばしば発生していることから、食品安全上の問題としての認知度は高いものの、食品安全の観点からリスク管理の対象となり得る具体的な毒素の種類は知られていないと考えられた。ピロリジジナルカロイド類の関心度は、いずれの属性でも5割前後であった。

- 食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物については、危害要因群としての認知度が全危害要因群中で最も低かったが、全体の80%が知っているという回答した。属性ごとに見た場合でも食品関連事業者の認知度は8割を下回っており、関係者への周知に課題があることが示唆された。危害要因別では、ヒスタミン、トランス脂肪酸の認知度が7割を超えており、この危害要因群の中では比較的高かった。
- 食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物についての関心度は、ヒスタミン、トランス脂肪酸、アクリルアミドでは7割前後と高いことが示された。その他の優先リストに掲載している有害化学物質である、ベンゾ[a]ピレン（PAH）、3-MCPD、3-MCPDE、GE、フラン、ニトロソアミン類については、認知している者においても関心がある者は5割前後かそれを下回る水準であった。食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物については、幅広い種類の食品を汚染するものではなく、特定の品目のみに関連する危害要因であるケースが多いため、認知度や関心度が低くなった要因と考えられた。
- なお、今回のアンケートは、所属団体等を通じて、関係者に回答を依頼したため、特に消費者からの回答数が限られており、回答者全体（総数）に占める消費者の割合が低いことに留意が必要である。

5. 今後の対応

今回のアンケート結果に基づいて、各危害要因についての相対的な関係者の関心度を評価し、「食品の安全性に関するリスク管理検討会」においてさらに関係者からの意見、情報を聴取した上で、優先的にリスク管理に取り組むべき有害化学物質の検討規準における、「関係者の関心」に反映させる。

現在、農林水産省が優先的にリスク管理を行う対象としている有害化学物質以外の物質で、食品安全の観点から関心があるとの情報が寄せられた危害要因については、寄せられた意見とともに、当省としての対応の方針を整理し、「食品の安全性に関するリスク管理検討会」において関係者からの意見、情報を聴取した上で、優先的にリスク管理に取り組むべき有害化学物質として検討すべきかどうかを判断する。

令和 7 年 8 月

関係者各位

食品安全の観点での有害化学物質に対する関心についてのアンケート
(協力依頼)

農林水産省消費・安全局食品安全政策課

日頃から農林水産省における食品安全行政にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。

安全な食品の安定供給は農林水産省の重要任務の一つです。農林水産省は、食品中の有害化学物質の実態調査結果をもとに、人の健康に悪影響を及ぼす可能性がどの程度あるかを推定しています。その結果、悪影響がないと言い切れない場合は、食品の安全性を向上させる措置を策定し普及しています。

農林水産省では今般、食品安全の観点から優先的にリスク管理を行うべき有害化学物質の見直しを予定しています。その際には、食品中の有害化学物質に関する科学的なデータや情報、国際的な動向に加えて、関係者や国民の皆様の関心度も重要な要素として考慮いたします。

つきましては、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質や、それらに対する関心の程度について、関係者、国民の皆様から広くご意見・情報をお寄せいただきたく、下記のとおりアンケートにご協力いただければ幸いです。

記

1. アンケートの内容

別添のとおり

2. 締切り

令和 7 年 9 月 5 日 (金曜日)

3. 提出方法・提出先

以下の URL もしくは QR コードより、Web フォーム (Microsoft® Forms®形式) にアクセスしていただき、ご回答をお願いいたします。

※ Web フォームのご活用が難しい場合は、当課までご相談ください。

<https://forms.office.com/r/kTBeiCX5Ak>



↑ Web フォームの QR コード

現在、アンケートは終了しており
受け付けておりません。

4. 記入上の注意

- ・提出者の所属、役職、氏名、連絡先（電話番号、メールアドレス）をご記入ください。お問合せの確認等の連絡に利用します。
- ・いただいた情報やご意見は、それらの概要をまとめて会議資料等として公表します。
- ・いただいた情報やご意見が当省の所管外である場合は、関係府省に提供します。（個人・個社等の特定が可能な情報は、公表いたしません。）

<お問合せ先>

農林水産省

消費・安全局食品安全政策課

担当：リスク管理企画班 漆山、桑原

代表：03-3502-8111（内線 4459）

ダイヤルイン：03-3502-7674

E-mail: syouhi_riskteam@maff.go.jp

(別添)

食品安全の観点での有害化学物質に対する関心についてのアンケート
(Web フォームの内容と全く同一です。)

記入日		2025 年 月 日
所属機関／団体名		
所属機関等の分類		☐ 地方自治体 ☐ 大学・研究機関 ☐ 食品関連事業者（生産・製造・流通・小売等） ☐ 業界団体 ☐ 消費者 ☐ 消費者団体・市民団体・NPO 等 ☐ その他（自由記載：_____）
部署・役職 （個人の場合は、「なし」とご記入ください。）		
担当者（記入者）氏名		
連絡先	電　話	
	メー ル	

はじめに

【アンケートの背景と目的】

農林水産省では、食品安全の観点から優先的にリスク管理を行うべき有害化学物質の見直しを予定しています。

その際には、食品中の有害化学物質に関する科学的なデータや情報、国際的な動向に加えて、関係者や国民の皆様の関心度も重要な要素として考慮いたします。

つきましては、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質や、それらに対する関心の程度について、関係者、国民の皆様から広くご意見・情報をお寄せいただければ幸いです。

【アンケートの内容】

①現在、優先的にリスク管理を実施している有害化学物質に関する質問

海産毒素、かび毒、植物性自然毒、重金属等、食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物などの有害化学物質の分類別に、食品安全の観点からの関心の程度を選択してください。

併せて、関心をお持ちの理由や参考情報についても、記入をお願いします。（自由回答）

②その他、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質に関する質問

上記のほかに、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質がある場合、その化学物質の名称と、関心をお持ちの理由や参考情報について記入をお願いします。（自由回答ですが、必ず理由の記載をお願いします。）

なお、農薬や動物用医薬品、食品添加物などの意図的に使用される資材やその食品への残留物は、今回のアンケートの対象外です。

特に自由回答欄では、例えば、食品中の含有実態調査や、低減技術の研究開発、現場における安全性向上のための取組などの具体的な関心分野や、輸出先国規制などの現状の課題等、忌憚のないご意見を頂戴できますと幸いです。

【アンケートの構成】

①海産毒素、②かび毒、③植物性自然毒、④重金属等、⑤食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物、⑥その他の環境汚染物質（放射性セシウム、ダイオキシン類、PFAS など）の順に、最初に各危害要因群を知っていたかを伺います。

その上で、知っていた方を対象に、具体的に各ハザードへの関心の程度やその理由等を伺います。

【参考情報】各有害化学物質に関する情報は、以下の URL からご覧いただけます。

・有害化学物質についての情報

https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/hazard_chem.html

本アンケートは、リスク管理の対象とすべき有害化学物質に関する意見や関心度を把握し、今後の施策検討の参考とすることを目的としています。

ご回答いただいた内容は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。
また、取得した情報は適切に管理し、本アンケートの目的以外には使用しません。

この内容に同意いただける場合は、下記にチェックを入れてください。

☐ 同意します

① 海産毒素

海産毒素とは、海の中にいるプランクトンが作り出す天然の毒素のことです。

魚類や二枚貝がそれらの毒素を作るプランクトンを食べると、魚類や二枚貝の体内にも毒素がたまることがあります。

毒素がたまった魚類や二枚貝を食べると、下痢や吐き気、腹痛、しびれなどの食中毒を引き起こす可能性があります。

問 魚類や二枚貝に含まれる海産毒素が、ヒトの健康に悪影響を与える可能性があることを、知っていましたか。

☐ はい ☐ いいえ (⇒「② かび毒」の質問に進んでください。)

以下の各ハザードへの、食品安全の観点からの関心の程度を教えてください。

	非常に 関心がある	ある 程度 関心がある	どちら とも言 えない	あ ま り 関 心 が な い	全 く 関 心 が な い	知 ら な か っ た	関心をお持ちの理由や、 その他参考情報等、 自由にご記入ください。
下痢性貝毒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
麻痺性貝毒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
アザスピロ酸	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
シガテラ毒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	

上記のほか、海産毒素で、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質がある場合、その化学物質名と理由を記載してください。

化学物質名	当該化学物質に関心をお持ちの理由 (根拠となるウェブサイトの URL や文献のタイトル等がお分かりでしたら、併せて記載してください。)

※記入欄が足りない場合は、適宜追加してください。

② かび毒

かび毒は、植物に感染したり、食品に付着したりした、かびが作り出す天然の毒素のことです。

かび毒が蓄積した農産物や食品を人が大量に食べたり、食べ続けたりした場合には、健康に悪影響を与える可能性があります。

また、かび毒が蓄積した飼料を家畜が食べた場合には、家畜の健康に悪影響を与えたり、畜産物がかび毒に汚染されたりする可能性があります。

問 食品に含まれるかび毒が、ヒトの健康に悪影響を与える可能性があることを、知っていましたか。

☐はい ☐いいえ (⇒「③ 植物性自然毒」の質問に進んでください。)

以下の各ハザードへの、食品安全の観点からの関心の程度を教えてください。

	非常に 関心がある	ある 程度 関心がある	どちら とも言 えない	あまり 関心 がない	全く 関心 がない	知ら なかつ た	関心をお持ちの理由や、 その他参考情報等、 自由にご記入ください。
デオキシニバレノール (DON)、ニバレノール (NIV)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
パツリン	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
フモニシン類	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
総アフラトキシン	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
アフラトキシン M ₁	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
オクラトキシン A (OTA)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
ステリグマトシチン (STC)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
ゼアラレノン (ZEN)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	

	非常に 関心が ある	ある 程度 関心が ある	どち らとも 言えな い	あま り関心 がない	全 く関心 がない	知 らな かつ た	関心をお持ちの理由や、 その他参考情報等、 自由にご記入ください。
T-2 トキシン (T2)、HT-2 トキ シン (HT2)、ジア セトキシスシルペ ノール (DAS)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
麦角アルカロイド 類 (EA)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	

上記のほか、かび毒で、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質がある場合、その化学物質名と理由を記載してください。

化学物質名	当該化学物質に関心をお持ちの理由 (根拠となるウェブサイトの URL や文献のタイトル等がお分かりで したら、併せて記載してください。)

※記入欄が足りない場合は、適宜追加してください。

③ 植物性自然毒

植物性自然毒は、植物が元々持っている自らの体を守るために作る天然の毒素のことです。

自然毒を含む植物の食べ方や下処理の方法を間違えたり、大量に食べ続けたりすると健康に悪影響を与える可能性があります。

植物性自然毒を含む雑草の葉や子実などが、穀類、豆類、野菜類に混入して、人の健康被害を引き起こす場合もあります。

飼料に混入した場合には、家畜の健康や畜産物の安全性に影響する場合もあります。

問 農産物や畜産物に含まれる植物性自然毒が、ヒトの健康に悪影響を与える可能性があることを、知っていましたか。

☐ はい ☐ いいえ (⇒「④ 重金属等」の質問に進んでください。)

以下の各ハザードへの、食品安全の観点からの関心の程度を教えてください。

	非常に 関心がある	ある 程度 関心がある	どちら とも言 えない	あ ま り 関 心 が な い	全 く 関 心 が な い	知 ら な か っ た	関心をお持ちの理由や、 その他参考情報等、 自由にご記入ください。
ピロリジジナル カロイド類 (PA)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	

上記のほか、植物性自然毒で、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質がある場合、その化学物質名と理由を記載してください。

化学物質名	当該化学物質に関心をお持ちの理由 (根拠となるウェブサイトの URL や文献のタイトル等がお分かりでしたら、併せて記載してください。)

※記入欄が足りない場合は、適宜追加してください。

④ 重金属等

重金属などの有害元素は、水、土壌、大気などの自然環境中にもともと存在しているほか、工業利用などの影響によって環境に放出されることもあります。

これらの有害元素は、水や土壌、大気を通じて、農畜水産物や食品に移行、蓄積することが知られおり、そうした食品を通じて大量に、あるいは長期間にわたって食べ続けることで人の体内に蓄積され、健康に悪影響を及ぼすことがあります。

問 自然環境中の重金属などの有害元素の食品を通じた摂取が、ヒトの健康に悪影響を及ぼす可能性があることを、知っていましたか。

☐ はい ☐ いいえ (⇒「⑤ 食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物」の質問に進んでください。)

以下の各ハザードへの、食品安全の観点からの関心の程度を教えてください。

	非常に 関心がある	ある 程度 関心がある	どちら とも言 えない	あまり 関心 がない	全く 関心 がない	知 ら な か っ た	関心をお持ちの理由や、 その他参考情報等、 自由にご記入ください。
カドミウム (Cd)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
ヒ素 (As)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
鉛 (Pb)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
水銀 (Hg)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	

上記のほか、重金属等で、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質がある場合、その化学物質名と理由を記載してください。

化学物質名	当該化学物質に関心をお持ちの理由 (根拠となるウェブサイトの URL や文献のタイトル等がお分かりでしたら、併せて記載してください。)

※記入欄が足りない場合は、適宜追加してください。

⑤ 食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物

食品の加工や製造の過程では、食品中の糖類、アミノ酸、脂質などの成分が、加熱や微生物の作用などにより化学反応を起こし、その結果、意図せず有害な化学物質が副産物として生成されることがあります。

問 食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物が、食品を介してヒトの健康に悪影響を与える可能性があることを、知っていましたか。

☐はい ☐いいえ (⇒「⑥その他の環境汚染物質」の質問に進んでください。)

以下の各ハザードへの、食品安全の観点からの関心の程度を教えてください。

	非常に 関心がある	ある 程度 関心がある	どちら とも言 えない	あまり 関心 がない	全く 関心 がない	知ら なかつ た	関心をお持ちの理由や、 その他参考情報等、 自由にご記入ください。
ヒスタミン	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
アクリルアミド (AA)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
ベンゾ[a]ピレン (PAH)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
3-MCPD	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
3-MCPD 脂肪酸エ ステル類 (3-MCPDE)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
グリシドール脂肪 酸エステル類 (GE)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
フラン	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
トランス脂肪酸 (TFA)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
ニトロソアミン類	☐	☐	☐	☐	☐	☐	

上記のほか、食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物で、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質がある場合、その化学物質名と理由を記載してください。

化学物質名	当該化学物質に関心をお持ちの理由 (根拠となるウェブサイトの URL や文献のタイトル等がお分かりでしたら、併せて記載してください。)

※記入欄が足りない場合は、適宜追加してください。

⑥ その他の環境汚染物質

人為的な活動や事故などにより環境中に放出された有機化合物や放射性物質が、水や土壌、大気を通じて農畜水産物や食品に移行、蓄積することが知られており、そうした食品を通じ大量に、あるいは長期間にわたって食べ続けることで人の体内に蓄積され、健康に悪影響を及ぼすことがあります。

環境中で分解し難い有機化合物の場合には、環境中に長く留まり、地球上を移動し続けることで、幅広い食品を汚染する可能性が知られています。

問 環境中に放出された難分解性の化学物質や放射性物質が、食品を介してヒトの健康に悪影響を及ぼす可能性があることを、知っていましたか。

☐ はい ☐ いいえ (⇒「⑦ その他、関心をお持ちの有害化学物質」の質問に進んでください。)

以下の各ハザードへの、食品安全の観点からの関心の程度を教えてください。

	非常に 関心がある	ある 程度 関心がある	どちら とも言 えない	あ ま り 関 心 が な い	全 く 関 心 が な い	知 ら な か っ た	関心をお持ちの理由や、 その他参考情報等、 自由にご記入ください。
放射性セシウム	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
ダイオキシン類	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
パーフルオロアル キル化合物 (PFAS)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	

上記のほか、環境汚染物質で、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質がある場合、その化学物質名と理由を記載してください。

化学物質名	当該化学物質に関心をお持ちの理由 (根拠となるウェブサイトの URL や文献のタイトル等がお分かりでしたら、併せて記載してください。)

※記入欄が足りない場合は、適宜追加してください。

⑦ その他、関心をお持ちの有害化学物質

これまでの有害化学物質の各分類のほかに、食品安全の観点から関心をお持ちの有害化学物質があれば、その化学物質名を記載していただくとともに、関心をお持ちの理由と、可能であれば参考情報を記載してください。

化学物質名	当該化学物質に関心をお持ちの理由 (根拠となるウェブサイトの URL や文献のタイトル等がお分かりでしたら、併せて記載してください。)

※記入欄が足りない場合は、適宜追加してください。

アンケートは以上です。

御協力をいただき、誠にありがとうございます。

ご回答をいただいた貴重な情報は、今後の有害化学物質の優先リスト改訂の議論に活用させていただきます。

「食品安全の観点での有害化学物質に対する関心についてのアンケート」の結果の集計表

(1) 回答数

属性区分	回答数
地方自治体・行政機関等 (以下、「自治体」)	313
大学・試験研究機関等、分析機器メーカー等 (以下、「研究者」)	694
食品関連事業者、資材関連事業者、専門職 (以下、「食品関連事業者」)	456
消費者	45
合計 (以下、「全体」)	1,508

(2) 危害要因群ごとの認知度 (全体)

属性区分	知っていた	知らなかった	合計
海産毒素	1,361 90%	147 10%	1,508
かび毒	1,418 94%	90 6%	1,508
植物性自然毒	1,328 88%	180 12%	1,508
重金属等	1,454 96%	54 4%	1,508
食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物	1,208 80%	300 20%	1,508
その他の環境汚染物質	1,403 93%	105 7%	1,508

(3) 危害要因群ごとの認知度（属性区分ごと）

① 海産毒素

属性区分	知っていた	知らなかった	合計
自治体	274 88%	39 12%	313
研究者	638 92%	56 8%	694
食品関連事業者	407 89%	49 11%	456
消費者	42 93%	3 7%	45
全体	1,361 90%	147 10%	1,508

② かび毒

属性区分	知っていた	知らなかった	合計
自治体	295 94%	18 6%	313
研究者	652 94%	42 6%	694
食品関連事業者	427 94%	29 6%	456
消費者	44 98%	1 2%	45
全体	1,418 94%	90 6%	1,508

③ 植物性自然毒

属性区分	知っていた	知らなかった	合計
自治体	283 90%	30 10%	313
研究者	620 89%	74 11%	694
食品関連事業者	385 84%	71 16%	456
消費者	40 89%	5 11%	45
全体	1328 88%	180 12%	1,508

④ 重金属等

属性区分	知っていた	知らなかった	合計
自治体	299 96%	14 4%	313
研究者	682 98%	12 2%	694
食品関連事業者	431 95%	25 5%	456
消費者	42 93%	3 7%	45
全体	1,454 96%	54 4%	1,508

⑤ 食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物

属性区分	知っていた	知らなかった	合計
自治体	260 83%	53 17%	313
研究者	560 81%	134 19%	694
食品関連事業者	353 77%	103 23%	456
消費者	35 78%	10 22%	45
全体	1,208 80%	300 20%	1,508

⑥ その他の環境汚染物質

属性区分	知っていた	知らなかった	合計
自治体	293 94%	20 6%	313
研究者	657 95%	37 5%	694
食品関連事業者	412 90%	44 10%	456
消費者	41 91%	4 9%	45
全体	1,403 93%	105 7%	1,508

(4) 現在、優先的にリスク管理を行う対象としている有害化学物質ごとの関心の程度

アンケート結果をもとに、有害化学物質ごとの「関心度」を算出した。ここでは、「関心度」を、当該ハザードを「知っていた」者を母数として、「非常に関心がある」または「ある程度関心がある」に回答した者の割合とした。

※（３）で危害要因群を「知らなかった」と回答した者については、当該危害要因群に属する全てのハザードについて、「知らなかった」ものとして集計した。

※「知っていた」の「小計」は、「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」、「どちらとも言えない」、「あまり関心がない」、「全く関心がない」の各項目への回答の合計により算出した。

※「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」、「どちらとも言えない」、「あまり関心がない」、「全く関心がない」の各項目への回答率は、「知っていた」者を母数として算出し、括弧書きで示した。

※「知っていた」の「小計」と、「知らなかった」の各項目への回答率は、全回答者を母数として算出し、括弧書きで示した。

① 海産毒素

1) 下痢性貝毒

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く関 心がない	
自治体 (n=313)	266 (85.0%)	47 (15.0%)	55 (20.7%)	159 (59.8%)	35 (13.2%)	16 (6.0%)	1 (0.4%)	80.5%
研究者 (n=694)	616 (88.8%)	78 (11.2%)	178 (28.9%)	319 (51.8%)	77 (12.5%)	38 (6.2%)	4 (0.6%)	80.7%
食品関連 事業者 (n=456)	392 (86.0%)	64 (14.0%)	73 (18.6%)	172 (43.9%)	78 (19.9%)	59 (15.1%)	10 (2.6%)	62.5%
消費者 (n=45)	37 (82.2%)	8 (17.8%)	8 (21.6%)	19 (51.4%)	7 (18.9%)	3 (8.1%)	0 (0.0%)	73.0%
全体 (n=1,508)	1311 (86.9%)	197 (13.1%)	314 (24.0%)	669 (51.0%)	197 (15.0%)	116 (8.8%)	15 (1.1%)	75.0%

2) 麻痺性貝毒

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	264 (84.3%)	49 (15.7%)	65 (24.6%)	145 (54.9%)	34 (12.9%)	18 (6.8%)	2 (0.8%)	79.5%
研究者 (n=694)	600 (86.5%)	94 (13.5%)	186 (31.0%)	285 (47.5%)	86 (14.3%)	39 (6.5%)	4 (0.7%)	78.5%
食品関連 事業者 (n=456)	382 (83.8%)	74 (16.2%)	64 (16.8%)	156 (40.8%)	89 (23.3%)	62 (16.2%)	11 (2.9%)	57.6%
消費者 (n=45)	36 (80.0%)	9 (20.0%)	7 (19.4%)	19 (52.8%)	7 (19.4%)	3 (8.3%)	0 (0.0%)	72.2%
全体 (n=1,508)	1282 (85.0%)	226 (15.0%)	322 (25.1%)	605 (47.2%)	216 (16.8%)	122 (9.5%)	17 (1.3%)	72.3%

3) アザスピロ酸

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	157 (50.2%)	156 (49.8%)	14 (8.9%)	67 (42.7%)	46 (29.3%)	26 (16.6%)	4 (2.5%)	51.6%
研究者 (n=694)	373 (53.7%)	321 (46.3%)	52 (13.9%)	123 (33.0%)	128 (34.3%)	66 (17.7%)	4 (1.1%)	46.9%
食品関連 事業者 (n=456)	269 (59.0%)	187 (41.0%)	28 (10.4%)	78 (29.0%)	96 (35.7%)	58 (21.6%)	9 (3.3%)	39.4%
消費者 (n=45)	27 (60.0%)	18 (40.0%)	3 (11.1%)	6 (22.2%)	14 (51.9%)	3 (11.1%)	1 (3.7%)	33.3%
全体 (n=1,508)	826 (54.8%)	682 (45.2%)	97 (11.7%)	274 (33.2%)	284 (34.4%)	153 (18.5%)	18 (2.2%)	44.9%

4) シガテラ毒

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く関 心がない	
自治体 (n=313)	235 (75.1%)	78 (24.9%)	48 (20.4%)	121 (51.5%)	45 (19.1%)	20 (8.5%)	1 (0.4%)	71.9%
研究者 (n=694)	518 (74.6%)	176 (25.4%)	119 (23.0%)	240 (46.3%)	104 (20.1%)	51 (9.8%)	4 (0.8%)	69.3%
食品関連 事業者 (n=456)	316 (69.3%)	140 (30.7%)	35 (11.1%)	121 (38.3%)	89 (28.2%)	61 (19.3%)	10 (3.2%)	49.4%
消費者 (n=45)	31 (68.9%)	14 (31.1%)	3 (9.7%)	10 (32.3%)	15 (48.4%)	3 (9.7%)	0 (0.0%)	41.9%
全体 (n=1,508)	1100 (72.9%)	408 (27.1%)	205 (18.6%)	492 (44.7%)	253 (23.0%)	135 (12.3%)	15 (1.4%)	63.4%

② かび毒

1) デオキシニバレノール (DON)、ニバレノール (NIV)

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く関 心がない	
自治体 (n=313)	211 (67.4%)	102 (32.6%)	36 (17.1%)	104 (49.3%)	52 (24.6%)	17 (8.1%)	2 (0.9%)	66.4%
研究者 (n=694)	384 (55.3%)	310 (44.7%)	76 (19.8%)	141 (36.7%)	120 (31.3%)	42 (10.9%)	5 (1.3%)	56.5%
食品関連 事業者 (n=456)	299 (65.6%)	157 (34.4%)	85 (28.4%)	91 (30.4%)	83 (27.8%)	34 (11.4%)	6 (2.0%)	58.9%
消費者 (n=45)	25 (55.6%)	20 (44.4%)	8 (32.0%)	5 (20.0%)	10 (40.0%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	52.0%
全体 (n=1,508)	919 (60.9%)	589 (39.1%)	205 (22.3%)	341 (37.1%)	265 (28.8%)	95 (10.3%)	13 (1.4%)	59.4%

2) パツリン

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	211 (67.4%)	102 (32.6%)	30 (14.2%)	94 (44.5%)	67 (31.8%)	18 (8.5%)	2 (0.9%)	58.8%
研究者 (n=694)	371 (53.5%)	323 (46.5%)	62 (16.7%)	133 (35.8%)	129 (34.8%)	41 (11.1%)	6 (1.6%)	52.6%
食品関連 事業者 (n=456)	288 (63.2%)	168 (36.8%)	54 (18.8%)	102 (35.4%)	89 (30.9%)	39 (13.5%)	4 (1.4%)	54.2%
消費者 (n=45)	24 (53.3%)	21 (46.7%)	5 (20.8%)	6 (25.0%)	10 (41.7%)	2 (8.3%)	1 (4.2%)	45.8%
全体 (n=1,508)	894 (59.3%)	614 (40.7%)	151 (16.9%)	335 (37.5%)	295 (33.0%)	100 (11.2%)	13 (1.5%)	54.4%

3) フモニシン類

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	183 (58.5%)	130 (41.5%)	22 (12.0%)	68 (37.2%)	73 (39.9%)	18 (9.8%)	2 (1.1%)	49.2%
研究者 (n=694)	345 (49.7%)	349 (50.3%)	46 (13.3%)	108 (31.3%)	134 (38.8%)	51 (14.8%)	6 (1.7%)	44.6%
食品関連 事業者 (n=456)	285 (62.5%)	171 (37.5%)	37 (13.0%)	95 (33.3%)	104 (36.5%)	43 (15.1%)	6 (2.1%)	46.3%
消費者 (n=45)	22 (48.9%)	23 (51.1%)	4 (18.2%)	5 (22.7%)	12 (54.5%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	40.9%
全体 (n=1,508)	835 (55.4%)	673 (44.6%)	109 (13.1%)	276 (33.1%)	323 (38.7%)	113 (13.5%)	14 (1.7%)	46.1%

4) 総アフラトキシン

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	232 (74.1%)	81 (25.9%)	49 (21.1%)	120 (51.7%)	50 (21.6%)	12 (5.2%)	1 (0.4%)	72.8%
研究者 (n=694)	480 (69.2%)	214 (30.8%)	124 (25.8%)	213 (44.4%)	99 (20.6%)	38 (7.9%)	6 (1.3%)	70.2%
食品関連 事業者 (n=456)	343 (75.2%)	113 (24.8%)	99 (28.9%)	143 (41.7%)	75 (21.9%)	20 (5.8%)	6 (1.7%)	70.6%
消費者 (n=45)	30 (66.7%)	15 (33.3%)	6 (20.0%)	12 (40.0%)	10 (33.3%)	2 (6.7%)	0 (0.0%)	60.0%
全体 (n=1,508)	1085 (71.9%)	423 (28.1%)	278 (25.6%)	488 (45.0%)	234 (21.6%)	72 (6.6%)	13 (1.2%)	70.6%

5) アフラトキシン M₁

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	219 (70.0%)	94 (30.0%)	41 (18.7%)	110 (50.2%)	54 (24.7%)	12 (5.5%)	2 (0.9%)	68.9%
研究者 (n=694)	436 (62.8%)	258 (37.2%)	106 (24.3%)	169 (38.8%)	114 (26.1%)	42 (9.6%)	5 (1.1%)	63.1%
食品関連 事業者 (n=456)	326 (71.5%)	130 (28.5%)	68 (20.9%)	149 (45.7%)	76 (23.3%)	29 (8.9%)	4 (1.2%)	66.6%
消費者 (n=45)	31 (68.9%)	14 (31.1%)	8 (25.8%)	13 (41.9%)	8 (25.8%)	1 (3.2%)	1 (3.2%)	67.7%
全体 (n=1,508)	1012 (67.1%)	496 (32.9%)	223 (22.0%)	441 (43.6%)	252 (24.9%)	84 (8.3%)	12 (1.2%)	65.6%

6) オクラトキシン A (OTA)

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	193 (61.7%)	120 (38.3%)	22 (11.4%)	91 (47.2%)	64 (33.2%)	13 (6.7%)	3 (1.6%)	58.5%
研究者 (n=694)	360 (51.9%)	334 (48.1%)	60 (16.7%)	123 (34.2%)	124 (34.4%)	49 (13.6%)	4 (1.1%)	50.8%
食品関連 事業者 (n=456)	301 (66.0%)	155 (34.0%)	52 (17.3%)	109 (36.2%)	99 (32.9%)	37 (12.3%)	4 (1.3%)	53.5%
消費者 (n=45)	23 (51.1%)	22 (48.9%)	5 (21.7%)	8 (34.8%)	9 (39.1%)	1 (4.3%)	0 (0.0%)	56.5%
全体 (n=1,508)	877 (58.2%)	631 (41.8%)	139 (15.8%)	331 (37.7%)	296 (33.8%)	100 (11.4%)	11 (1.3%)	53.6%

7) ステリグマトシスチン

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	161 (51.4%)	152 (48.6%)	17 (10.6%)	57 (35.4%)	68 (42.2%)	15 (9.3%)	4 (2.5%)	46.0%
研究者 (n=694)	323 (46.5%)	371 (53.5%)	36 (11.1%)	86 (26.6%)	146 (45.2%)	50 (15.5%)	5 (1.5%)	37.8%
食品関連 事業者 (n=456)	267 (58.6%)	189 (41.4%)	26 (9.7%)	80 (30.0%)	112 (41.9%)	42 (15.7%)	7 (2.6%)	39.7%
消費者 (n=45)	21 (46.7%)	24 (53.3%)	4 (19.0%)	4 (19.0%)	11 (52.4%)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	38.1%
全体 (n=1,508)	772 (51.2%)	736 (48.8%)	83 (10.8%)	227 (29.4%)	337 (43.7%)	109 (14.1%)	16 (2.1%)	40.2%

8) ゼアラレノン

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く関 心がない	
自治体 (n=313)	170 (54.3%)	143 (45.7%)	19 (11.2%)	68 (40.0%)	67 (39.4%)	13 (7.6%)	3 (1.8%)	51.2%
研究者 (n=694)	332 (47.8%)	362 (52.2%)	43 (13.0%)	96 (28.9%)	140 (42.2%)	47 (14.2%)	6 (1.8%)	41.9%
食品関連 事業者 (n=456)	273 (59.9%)	183 (40.1%)	36 (13.2%)	86 (31.5%)	106 (38.8%)	39 (14.3%)	6 (2.2%)	44.7%
消費者 (n=45)	21 (46.7%)	24 (53.3%)	5 (23.8%)	3 (14.3%)	10 (47.6%)	3 (14.3%)	0 (0.0%)	38.1%
全体 (n=1,508)	796 (52.8%)	712 (47.2%)	103 (12.9%)	253 (31.8%)	323 (40.6%)	102 (12.8%)	15 (1.9%)	44.7%

9) T-2 トキシン (T2)、HT-2 トキシン (HT2)、ジアセトキシシルペノール (DAS)

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く関 心がない	
自治体 (n=313)	161 (51.4%)	152 (48.6%)	18 (11.2%)	54 (33.5%)	71 (44.1%)	15 (9.3%)	3 (1.9%)	44.7%
研究者 (n=694)	331 (47.7%)	363 (52.3%)	36 (10.9%)	98 (29.6%)	140 (42.3%)	52 (15.7%)	5 (1.5%)	40.5%
食品関連 事業者 (n=456)	275 (60.3%)	181 (39.7%)	28 (10.2%)	91 (33.1%)	110 (40.0%)	39 (14.2%)	7 (2.5%)	43.3%
消費者 (n=45)	20 (44.4%)	25 (55.6%)	3 (15.0%)	4 (20.0%)	10 (50.0%)	3 (15.0%)	0 (0.0%)	35.0%
全体 (n=1,508)	787 (52.2%)	721 (47.8%)	85 (10.8%)	247 (31.4%)	331 (42.1%)	109 (13.9%)	15 (1.9%)	42.2%

10) 麦角アルカロイド類

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	205 (65.5%)	108 (34.5%)	25 (12.2%)	97 (47.3%)	65 (31.7%)	16 (7.8%)	2 (1.0%)	59.5%
研究者 (n=694)	437 (63.0%)	257 (37.0%)	72 (16.5%)	181 (41.4%)	131 (30.0%)	48 (11.0%)	5 (1.1%)	57.9%
食品関連 事業者 (n=456)	298 (65.4%)	158 (34.6%)	42 (14.1%)	103 (34.6%)	107 (35.9%)	36 (12.1%)	10 (3.4%)	48.7%
消費者 (n=45)	24 (53.3%)	21 (46.7%)	5 (20.8%)	8 (33.3%)	9 (37.5%)	2 (8.3%)	0 (0.0%)	54.2%
全体 (n=1,508)	964 (63.9%)	544 (36.1%)	144 (14.9%)	389 (40.4%)	312 (32.4%)	102 (10.6%)	17 (1.8%)	55.3%

③ 植物性自然毒

1) ピロリジジナルカロイド類

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	185 (59.1%)	128 (40.9%)	15 (8.1%)	80 (43.2%)	66 (35.7%)	21 (11.4%)	3 (1.6%)	51.4%
研究者 (n=694)	410 (59.1%)	284 (40.9%)	54 (13.2%)	159 (38.8%)	142 (34.6%)	48 (11.7%)	7 (1.7%)	52.0%
食品関連 事業者 (n=456)	268 (58.8%)	188 (41.2%)	24 (9.0%)	91 (34.0%)	98 (36.6%)	47 (17.5%)	8 (3.0%)	42.9%
消費者 (n=45)	25 (55.6%)	20 (44.4%)	3 (12.0%)	9 (36.0%)	10 (40.0%)	3 (12.0%)	0 (0.0%)	48.0%
全体 (n=1,508)	888 (58.9%)	620 (41.1%)	96 (10.8%)	339 (38.2%)	316 (35.6%)	119 (13.4%)	18 (2.0%)	49.0%

④ 重金属等

1) カドミウム

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	293 (93.6%)	20 (6.4%)	74 (25.3%)	172 (58.7%)	33 (11.3%)	10 (3.4%)	4 (1.4%)	84.0%
研究者 (n=694)	677 (97.6%)	17 (2.4%)	222 (32.8%)	344 (50.8%)	86 (12.7%)	21 (3.1%)	4 (0.6%)	83.6%
食品関連 事業者 (n=456)	424 (93.0%)	32 (7.0%)	125 (29.5%)	205 (48.3%)	79 (18.6%)	15 (3.5%)	0 (0.0%)	77.8%
消費者 (n=45)	41 (91.1%)	4 (8.9%)	12 (29.3%)	24 (58.5%)	3 (7.3%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	87.8%
全体 (n=1,508)	1435 (95.2%)	73 (4.8%)	433 (30.2%)	745 (51.9%)	201 (14.0%)	48 (3.3%)	8 (0.6%)	82.1%

2) ヒ素

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	297 (94.9%)	16 (5.1%)	71 (23.9%)	166 (55.9%)	45 (15.2%)	11 (3.7%)	4 (1.3%)	79.8%
研究者 (n=694)	678 (97.7%)	16 (2.3%)	216 (31.9%)	333 (49.1%)	99 (14.6%)	24 (3.5%)	6 (0.9%)	81.0%
食品関連 事業者 (n=456)	430 (94.3%)	26 (5.7%)	126 (29.3%)	219 (50.9%)	74 (17.2%)	10 (2.3%)	1 (0.2%)	80.2%
消費者 (n=45)	41 (91.1%)	4 (8.9%)	11 (26.8%)	22 (53.7%)	5 (12.2%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	80.5%
全体 (n=1,508)	1446 (95.9%)	62 (4.1%)	424 (29.3%)	740 (51.2%)	223 (15.4%)	48 (3.3%)	11 (0.8%)	80.5%

3) 鉛

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く関 心がない	
自治体 (n=313)	299 (95.5%)	14 (4.5%)	59 (19.7%)	169 (56.5%)	53 (17.7%)	14 (4.7%)	4 (1.3%)	76.3%
研究者 (n=694)	677 (97.6%)	17 (2.4%)	187 (27.6%)	344 (50.8%)	115 (17.0%)	26 (3.8%)	5 (0.7%)	78.4%
食品関連 事業者 (n=456)	427 (93.6%)	29 (6.4%)	111 (26.0%)	229 (53.6%)	72 (16.9%)	14 (3.3%)	1 (0.2%)	79.6%
消費者 (n=45)	41 (91.1%)	4 (8.9%)	9 (22.0%)	25 (61.0%)	5 (12.2%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	82.9%
全体 (n=1,508)	1444 (95.8%)	64 (4.2%)	366 (25.3%)	767 (53.1%)	245 (17.0%)	56 (3.9%)	10 (0.7%)	78.5%

4) 水銀

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く関 心がない	
自治体 (n=313)	299 (95.5%)	14 (4.5%)	73 (24.4%)	167 (55.9%)	45 (15.1%)	10 (3.3%)	4 (1.3%)	80.3%
研究者 (n=694)	678 (97.7%)	16 (2.3%)	210 (31.0%)	337 (49.7%)	104 (15.3%)	22 (3.2%)	5 (0.7%)	80.7%
食品関連 事業者 (n=456)	430 (94.3%)	26 (5.7%)	110 (25.6%)	220 (51.2%)	82 (19.1%)	16 (3.7%)	2 (0.5%)	76.7%
消費者 (n=45)	41 (91.1%)	4 (8.9%)	9 (22.0%)	26 (63.4%)	4 (9.8%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	85.4%
全体 (n=1,508)	1448 (96.0%)	60 (4.0%)	402 (27.8%)	750 (51.8%)	235 (16.2%)	50 (3.5%)	11 (0.8%)	79.6%

⑤ 食品の加工や製造の過程などで生成する有害な副産物

1) ヒスタミン

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちらとも 言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	246 (78.6%)	67 (21.4%)	77 (31.3%)	128 (52.0%)	32 (13.0%)	7 (2.8%)	2 (0.8%)	83.3%
研究者 (n=694)	534 (76.9%)	160 (23.1%)	171 (32.0%)	245 (45.9%)	86 (16.1%)	28 (5.2%)	4 (0.7%)	77.9%
食品関連 事業者 (n=456)	333 (73.0%)	123 (27.0%)	81 (24.3%)	129 (38.7%)	94 (28.2%)	25 (7.5%)	4 (1.2%)	63.1%
消費者 (n=45)	33 (73.3%)	12 (26.7%)	8 (24.2%)	16 (48.5%)	8 (24.2%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	72.7%
全体 (n=1,508)	1146 (76.0%)	362 (24.0%)	337 (29.4%)	518 (45.2%)	220 (19.2%)	61 (5.3%)	10 (0.9%)	74.6%

2) アクリルアミド

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちらとも 言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	216 (69.0%)	97 (31.0%)	33 (15.3%)	109 (50.5%)	59 (27.3%)	13 (6.0%)	2 (0.9%)	65.7%
研究者 (n=694)	480 (69.2%)	214 (30.8%)	96 (20.0%)	241 (50.2%)	106 (22.1%)	32 (6.7%)	5 (1.0%)	70.2%
食品関連 事業者 (n=456)	295 (64.7%)	161 (35.3%)	53 (18.0%)	121 (41.0%)	89 (30.2%)	27 (9.2%)	5 (1.7%)	59.0%
消費者 (n=45)	27 (60.0%)	18 (40.0%)	6 (22.2%)	11 (40.7%)	8 (29.6%)	2 (7.4%)	0 (0.0%)	63.0%
全体 (n=1,508)	1018 (67.5%)	490 (32.5%)	188 (18.5%)	482 (47.3%)	262 (25.7%)	74 (7.3%)	12 (1.2%)	65.8%

3) ベンゾ[a]ピレン (PAH)

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	190 (60.7%)	123 (39.3%)	19 (10.0%)	80 (42.1%)	75 (39.5%)	13 (6.8%)	3 (1.6%)	52.1%
研究者 (n=694)	394 (56.8%)	300 (43.2%)	77 (19.5%)	145 (36.8%)	133 (33.8%)	37 (9.4%)	2 (0.5%)	56.3%
食品関連 事業者 (n=456)	262 (57.5%)	194 (42.5%)	32 (12.2%)	80 (30.5%)	106 (40.5%)	38 (14.5%)	6 (2.3%)	42.7%
消費者 (n=45)	23 (51.1%)	22 (48.9%)	4 (17.4%)	10 (43.5%)	7 (30.4%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	60.9%
全体 (n=1,508)	869 (57.6%)	639 (42.4%)	132 (15.2%)	315 (36.2%)	321 (36.9%)	90 (10.4%)	11 (1.3%)	51.4%

4) 3-モノクロロプロパン-1,2-ジオール (3-MCPD)

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	148 (47.3%)	165 (52.7%)	11 (7.4%)	47 (31.8%)	76 (51.4%)	12 (8.1%)	2 (1.4%)	39.2%
研究者 (n=694)	318 (45.8%)	376 (54.2%)	28 (8.8%)	96 (30.2%)	152 (47.8%)	37 (11.6%)	5 (1.6%)	39.0%
食品関連 事業者 (n=456)	245 (53.7%)	211 (46.3%)	25 (10.2%)	77 (31.4%)	104 (42.4%)	34 (13.9%)	5 (2.0%)	41.6%
消費者 (n=45)	19 (42.2%)	26 (57.8%)	2 (10.5%)	6 (31.6%)	9 (47.4%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	42.1%
全体 (n=1,508)	730 (48.4%)	778 (51.6%)	66 (9.0%)	226 (31.0%)	341 (46.7%)	85 (11.6%)	12 (1.6%)	40.0%

5) 3-MCPD 脂肪酸エステル類 (3-MCPDE)

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	152 (48.6%)	161 (51.4%)	11 (7.2%)	50 (32.9%)	79 (52.0%)	11 (7.2%)	1 (0.7%)	40.1%
研究者 (n=694)	325 (46.8%)	369 (53.2%)	28 (8.6%)	101 (31.1%)	151 (46.5%)	40 (12.3%)	5 (1.5%)	39.7%
食品関連 事業者 (n=456)	253 (55.5%)	203 (44.5%)	39 (15.4%)	74 (29.2%)	101 (39.9%)	33 (13.0%)	6 (2.4%)	44.7%
消費者 (n=45)	18 (40.0%)	27 (60.0%)	3 (16.7%)	5 (27.8%)	8 (44.4%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)	44.4%
全体 (n=1,508)	748 (49.6%)	760 (50.4%)	81 (10.8%)	230 (30.7%)	339 (45.3%)	86 (11.5%)	12 (1.6%)	41.6%

6) グリシドール脂肪酸エステル類 (GE)

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	153 (48.9%)	160 (51.1%)	13 (8.5%)	49 (32.0%)	80 (52.3%)	10 (6.5%)	1 (0.7%)	40.5%
研究者 (n=694)	335 (48.3%)	359 (51.7%)	30 (9.0%)	101 (30.1%)	158 (47.2%)	40 (11.9%)	6 (1.8%)	39.1%
食品関連 事業者 (n=456)	249 (54.6%)	207 (45.4%)	38 (15.3%)	76 (30.5%)	100 (40.2%)	28 (11.2%)	7 (2.8%)	45.8%
消費者 (n=45)	18 (40.0%)	27 (60.0%)	2 (11.1%)	5 (27.8%)	9 (50.0%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)	38.9%
全体 (n=1,508)	755 (50.1%)	753 (49.9%)	83 (11.0%)	231 (30.6%)	347 (46.0%)	80 (10.6%)	14 (1.9%)	41.6%

7) フラン

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	164 (52.4%)	149 (47.6%)	12 (7.3%)	66 (40.2%)	73 (44.5%)	11 (6.7%)	2 (1.2%)	47.6%
研究者 (n=694)	361 (52.0%)	333 (48.0%)	32 (8.9%)	106 (29.4%)	171 (47.4%)	43 (11.9%)	9 (2.5%)	38.2%
食品関連 事業者 (n=456)	253 (55.5%)	203 (44.5%)	24 (9.5%)	76 (30.0%)	112 (44.3%)	35 (13.8%)	6 (2.4%)	39.5%
消費者 (n=45)	22 (48.9%)	23 (51.1%)	3 (13.6%)	6 (27.3%)	10 (45.5%)	3 (13.6%)	0 (0.0%)	40.9%
全体 (n=1,508)	800 (53.1%)	708 (46.9%)	71 (8.9%)	254 (31.8%)	366 (45.8%)	92 (11.5%)	17 (2.1%)	40.6%

8) トランス脂肪酸

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	244 (78.0%)	69 (22.0%)	43 (17.6%)	112 (45.9%)	62 (25.4%)	23 (9.4%)	4 (1.6%)	63.5%
研究者 (n=694)	528 (76.1%)	166 (23.9%)	101 (19.1%)	255 (48.3%)	120 (22.7%)	41 (7.8%)	11 (2.1%)	67.4%
食品関連 事業者 (n=456)	331 (72.6%)	125 (27.4%)	79 (23.9%)	138 (41.7%)	86 (26.0%)	24 (7.3%)	4 (1.2%)	65.6%
消費者 (n=45)	32 (71.1%)	13 (28.9%)	10 (31.3%)	15 (46.9%)	6 (18.8%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	78.1%
全体 (n=1,508)	1135 (75.3%)	373 (24.7%)	233 (20.5%)	520 (45.8%)	274 (24.1%)	89 (7.8%)	19 (1.7%)	66.3%

9) ニトロソアミン類

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	193 (61.7%)	120 (38.3%)	20 (10.4%)	95 (49.2%)	63 (32.6%)	12 (6.2%)	3 (1.6%)	59.6%
研究者 (n=694)	414 (59.7%)	280 (40.3%)	66 (15.9%)	173 (41.8%)	131 (31.6%)	37 (8.9%)	7 (1.7%)	57.7%
食品関連 事業者 (n=456)	273 (59.9%)	183 (40.1%)	26 (9.5%)	92 (33.7%)	112 (41.0%)	37 (13.6%)	6 (2.2%)	43.2%
消費者 (n=45)	25 (55.6%)	20 (44.4%)	5 (20.0%)	10 (40.0%)	7 (28.0%)	3 (12.0%)	0 (0.0%)	60.0%
全体 (n=1,508)	905 (60.0%)	603 (40.0%)	117 (12.9%)	370 (40.9%)	313 (34.6%)	89 (9.8%)	16 (1.8%)	53.8%

⑥ その他の環境汚染物質

1) 放射性セシウム

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	287 (91.7%)	26 (8.3%)	66 (23.0%)	155 (54.0%)	48 (16.7%)	17 (5.9%)	1 (0.3%)	77.0%
研究者 (n=694)	648 (93.4%)	46 (6.6%)	163 (25.2%)	326 (50.3%)	110 (17.0%)	43 (6.6%)	6 (0.9%)	75.5%
食品関連 事業者 (n=456)	403 (88.4%)	53 (11.6%)	93 (23.1%)	197 (48.9%)	83 (20.6%)	28 (6.9%)	2 (0.5%)	72.0%
消費者 (n=45)	37 (82.2%)	8 (17.8%)	10 (27.0%)	16 (43.2%)	8 (21.6%)	3 (8.1%)	0 (0.0%)	70.3%
全体 (n=1,508)	1375 (91.2%)	133 (8.8%)	332 (24.1%)	694 (50.5%)	249 (18.1%)	91 (6.6%)	9 (0.7%)	74.6%

2) ダイオキシン類

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	290 (92.7%)	23 (7.3%)	54 (18.6%)	162 (55.9%)	52 (17.9%)	19 (6.6%)	3 (1.0%)	74.5%
研究者 (n=694)	651 (93.8%)	43 (6.2%)	159 (24.4%)	339 (52.1%)	118 (18.1%)	30 (4.6%)	5 (0.8%)	76.5%
食品関連 事業者 (n=456)	409 (89.7%)	47 (10.3%)	91 (22.2%)	202 (49.4%)	86 (21.0%)	23 (5.6%)	7 (1.7%)	71.6%
消費者 (n=45)	40 (88.9%)	5 (11.1%)	11 (27.5%)	23 (57.5%)	5 (12.5%)	1 (2.5%)	0 (0.0%)	85.0%
全体 (n=1,508)	1390 (92.2%)	118 (7.8%)	315 (22.7%)	726 (52.2%)	261 (18.8%)	73 (5.3%)	15 (1.1%)	74.9%

3) パーフフルオロアルキル化合物 (PFAS)

	知っていた (認知度)	知らなかった	「知っていた」の内数					関心度
			非常に 関心がある	ある程度 関心がある	どちら とも言えない	あまり 関心がない	全く 関心がない	
自治体 (n=313)	241 (77.0%)	72 (23.0%)	68 (28.2%)	112 (46.5%)	46 (19.1%)	12 (5.0%)	3 (1.2%)	74.7%
研究者 (n=694)	542 (78.1%)	152 (21.9%)	154 (28.4%)	233 (43.0%)	115 (21.2%)	35 (6.5%)	5 (0.9%)	71.4%
食品関連 事業者 (n=456)	340 (74.6%)	116 (25.4%)	92 (27.1%)	137 (40.3%)	88 (25.9%)	21 (6.2%)	2 (0.6%)	67.4%
消費者 (n=45)	34 (75.6%)	11 (24.4%)	11 (32.4%)	12 (35.3%)	8 (23.5%)	3 (8.8%)	0 (0.0%)	67.6%
全体 (n=1,508)	1157 (76.7%)	351 (23.3%)	325 (28.1%)	494 (42.7%)	257 (22.2%)	71 (6.1%)	10 (0.9%)	70.8%